

武蔵野市スポーツ振興計画一部改定

武蔵野市教育委員会

平成 28 年 4 月

目 次

I	計画の改定にあたって	1
1	背景	1
2	計画の改定	1
II	武蔵野市スポーツ振興計画の一部改定	3
	第5章 オリンピック・パラリンピック競技大会東京開催、ラグビー ワールドカップ日本開催等を見据えた教育委員会の取組み	3
1	現状と課題の認識	
(1)	アンケート調査から見た市民のスポーツへの関心や取組みについて	3
(2)	国や東京都、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 の取組みについて	16
2	教育委員会の取組みの方向性	18
	教育委員会の取組みの方向性	18
3	今後の取組み	19
(1)	スポーツの振興・啓発	19
(2)	学校教育との連携	21
(3)	生涯学習事業との連携	22
(4)	障害者スポーツの推進	23
(5)	体育施設の改修・整備	24
	本計画期間内における施設整備の基本的な考え方	24
(6)	他部門との連携	27
III	計画改定に対する評価	28
	公益財団法人日本学校体育研究連合会 会長 本村 清人	28
	(武蔵野市スポーツ振興計画策定委員会委員長)	
	武蔵野市体育協会 会長 河上 一雄	29
	(武蔵野市スポーツ振興計画策定委員会副委員長)	
	武蔵野市スポーツ推進委員協議会 会長 和田 明子	30
	(武蔵野市スポーツ振興計画策定委員会委員)	
IV	資料	32
1	スポーツ祭東京2013における武蔵野市の取組みについて	32
2	計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）	39
3	パブリックコメントについて	67
4	武蔵野市スポーツ振興計画改定検討会議設置要綱	71
5	検討経過	73

I 計画の改定にあたって

1 背景

武蔵野市スポーツ振興計画（平成 21 年 4 月策定。以下「計画」という。）策定以降、スポーツを取り巻く状況には大きな変化がありました。

一つ目の変化としては、平成 23 年のスポーツ基本法制定が挙げられます。この法律では、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利」と規定されるなど、スポーツに関する基本理念が示されました。そして法律の制定にともない、国は『スポーツ基本計画』を策定（平成 24 年 3 月）するなど、ここ数年でスポーツを総合的かつ計画的に取り組む仕組みが整ってきています。

もう一つの変化としては、平成 32 年にオリンピック・パラリンピック競技大会を東京で開催することが決まり、またその前年の平成 31 年には、世界 3 大会に数えられるラグビーワールドカップが日本で開催されることが決まったことが挙げられます。特に、約 50 年振りの東京開催となるオリンピック・パラリンピック競技大会に向けては、国を挙げての様々な検討・取組みがすでに進められているところです。

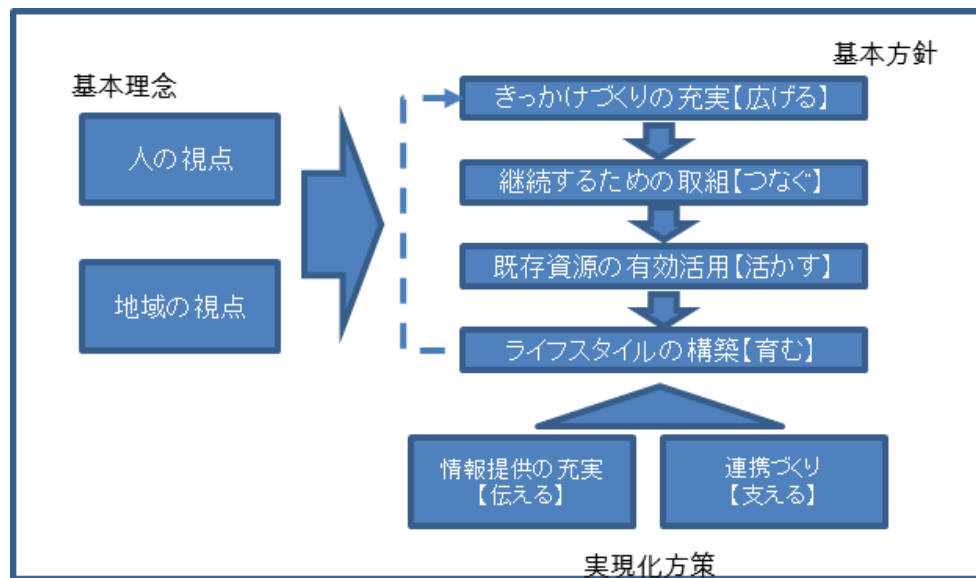
これらの状況の変化や、オリンピック・パラリンピック競技大会東京開催、及びラグビーワールドカップ日本開催（以下「オリンピック等国際大会」という）に伴うスポーツの機運の高まりを本市のスポーツ振興へと活かしていくため、またオリンピック等国際大会の開催後も見据えた取組みを検討するために、計画を一部改定し取組みの充実を図ります。

2 計画の改定

スポーツを取り巻く環境は大きな変化の渦中にあると言えますが、本市の計画が掲げる基本理念『(1)「人」の視点』『(2)「地域」の視点』（計画 p17）や、これに続く基本方針『1 きっかけづくりの充実【広げる】』『2 継続するための取組【つなぐ】』『3 既存資源の有効活用【活かす】』『4 ライフスタイルの構築【育む】』及び実現化方策『1 情報提供の充実【伝える】』『2 連携づくり【支える】』（計画 p18～19）は、この変化の中にあっても変わらずに重要なものであると考えられます。引き続きこれらを取組みの中心に据えるとともに、以下の項目を変更・追加することで計画を一部改定し、今後の施策に取り組んでいくこととします。

なお、現計画のこれまでの実績と成果、今後の取組みについては「IV 資料一 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）」（p39）にまとめました。

基本理念と基本方針、実現化方策



< 現行計画に対して変更・追加する項目 >

- ・ 章の追加：新たに章を追加することにより、現在の計画で想定されていなかったオリンピック等国際大会を見据えた教育委員会の取組みを追記します。
- ・ 計画期間：計画を一部改定し章を追加することにもない、一部改定後の計画期間の始まりを平成 28 年 4 月とし、計画期間をオリンピック・パラリンピック競技大会東京開催の翌年度となる平成 33 年度までとします。

Ⅱ 武蔵野市スポーツ振興計画の一部改定

現計画に、以下に示す第5章を追加します。

《追加項目》

第5章 オリンピック・パラリンピック競技大会東京開催、ラグビーワールドカップ 日本開催等を見据えた教育委員会の取組み

1 現状と課題の認識

(1) アンケート調査から見た市民のスポーツへの関心や取組みについて

計画の一部改定に先立ち、スポーツについてのアンケート調査を実施しました。

文部科学省による平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の中で実施されたアンケート調査結果（武蔵野市児童・生徒分）や、東京都教育委員会が実施した平成26年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査とともに結果を考察します。

■ 武蔵野市スポーツについてのアンケート調査

実施主体：市

対象：高校生（16～17歳無作為抽出市民300名）、成人（18歳以上無作為抽出市民1,600名、関係団体所属員120名、施設利用者200名）
※「成人」区分には18歳、19歳の方を含んでいます。

調査時期：平成27年8月

■ 平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査

実施主体：文部科学省

対象：小学5年生（市立小学校児童819名）、中学2年生（市立中学校生徒599名）

調査時期：平成26年5月

■ 平成26年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査

実施主体：東京都教育委員会

対象：小学1～6年生（市立小学校児童5,201名）、中学1～3年生（市立中学校生徒1,797名）

調査時期：平成26年4～6月

調査結果の詳細は別冊にまとめています。ここでは、いくつか特徴的な箇所を抽出して考察します。

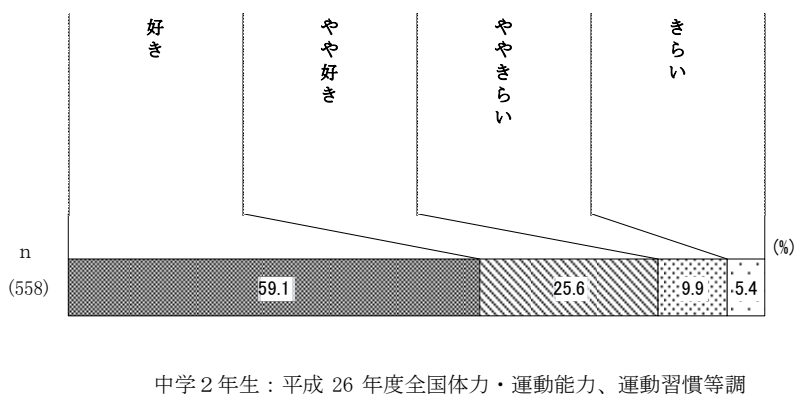
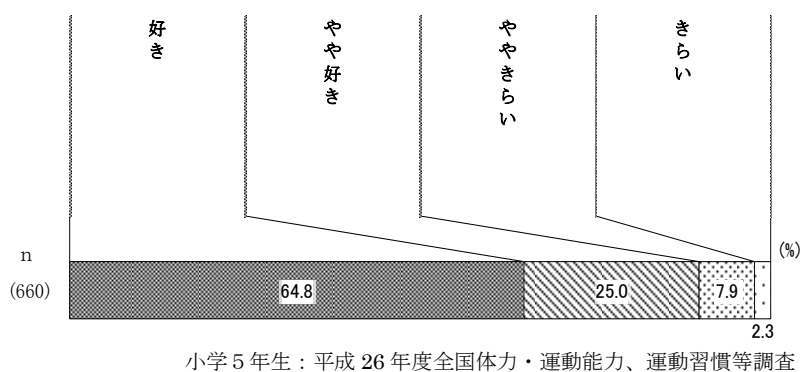
＜アンケート結果の考察＞

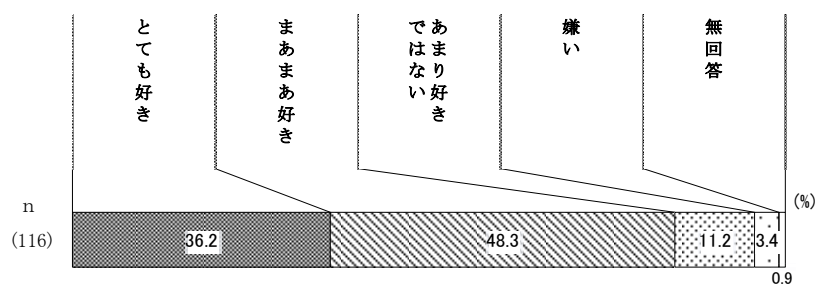
【1】 全世代に渡り「運動が好き」な市民の割合が高い。

「運動が好き」「やや好き」と応えた割合は小学生 89.8% (86.6%)、中学生 84.7% (82.3%)、高校生 84.5% (88.4%)、成人一般 80.1% (78.2%)、関係団体 96.5%、施設利用者 92.7%となっています（() 内は前回調査 [平成 19 年度武蔵野市スポーツ市民意識調査] 結果）。

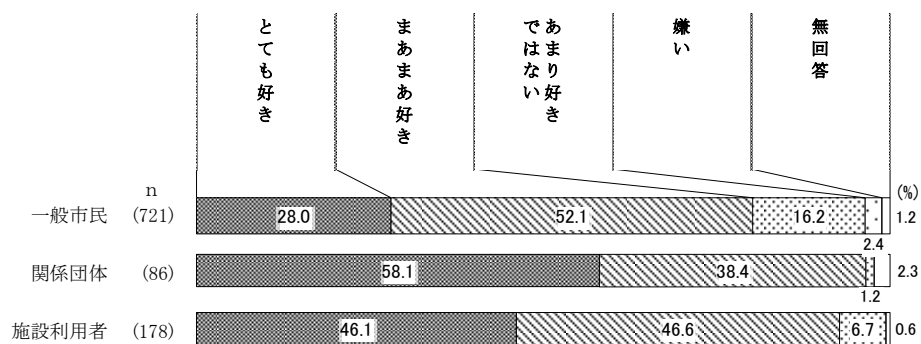
前回調査との比較では高校生で若干の減少が見られるものの、全ての年代で 80% 以上が「好き」と答えており、多くの市民の意識の中に、スポーツへの興味や関心は醸成されていると考えられます。

■ スポーツの「好き」「嫌い」





高校生：平成 27 年度武蔵野市スポーツに関するアンケート調査

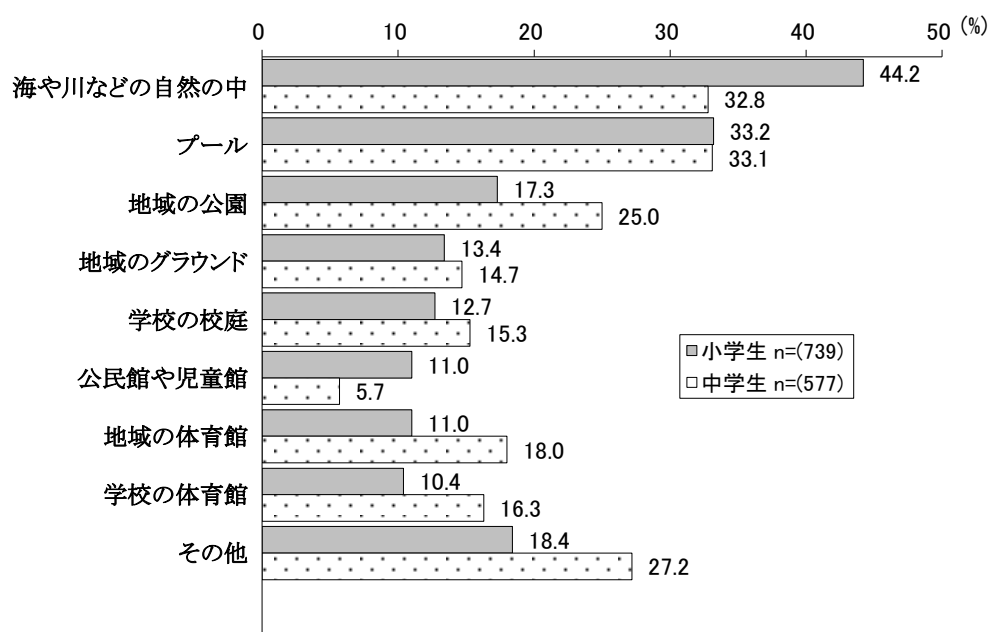


成人：平成 27 年度武蔵野市スポーツに関するアンケート調査

【2】 スポーツや運動に求めるものについて

小・中学生への調査における「放課後や休日に運動したい場所」への回答で、「海や川などの自然の中」と答えた割合が小学生 44.2%、中学生 32.8%となっています。スポーツ（運動）を単に身体を動かすことだけでなく、非日常や興味・関心を伴うもの、家族や友人との経験の共有といったものと一緒におこなうことに対してのニーズがあることが推察されます。

■放課後や休日に運動したい場所



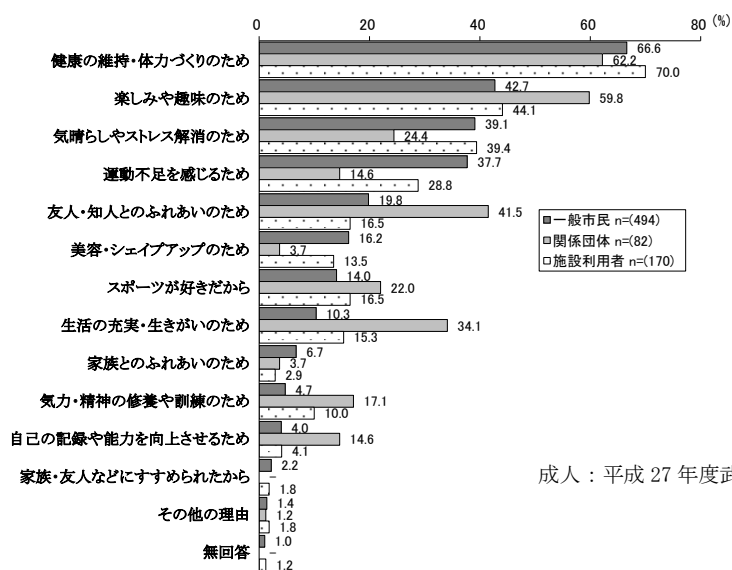
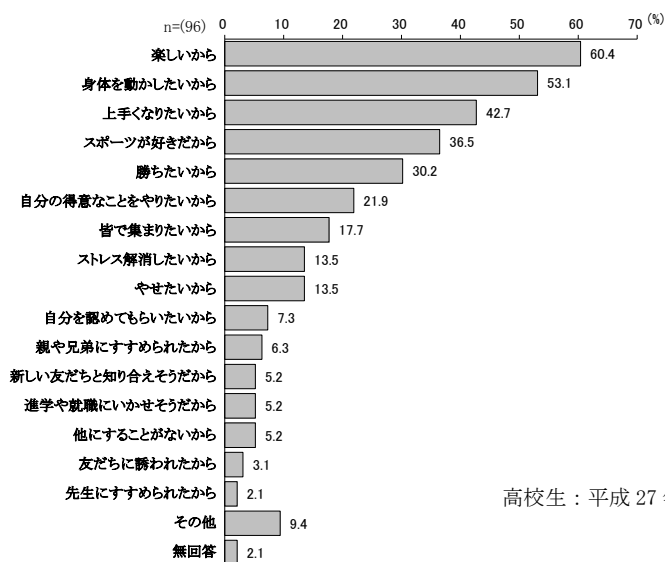
小学5年生・中学2年生：平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査

また、高校生による「スポーツや運動をする理由」への回答では、「楽しいから」に次いで「身体を動かしたいから」「上手になりたいから」「スポーツが好きだから」「勝ちたいから」といった項目が上位となっています。身体を動かすことへの純粋な欲求や競技力向上への挑戦、また挑戦によって得られる成功体験などがスポーツの動機づけになっている高校生が多いことが推察されます。

一方、成人による回答では「健康の維持・体力づくりのため」「楽しみや趣味のため」「気晴らしやストレス解消のため」「運動不足を感じるため」といった回答が多

くなっています。成人ではスポーツがもたらす「健康」「気分転換・ストレス解消」「体力向上」といった要素への欲求が高いことがわかります。

■ スポーツや運動をする理由



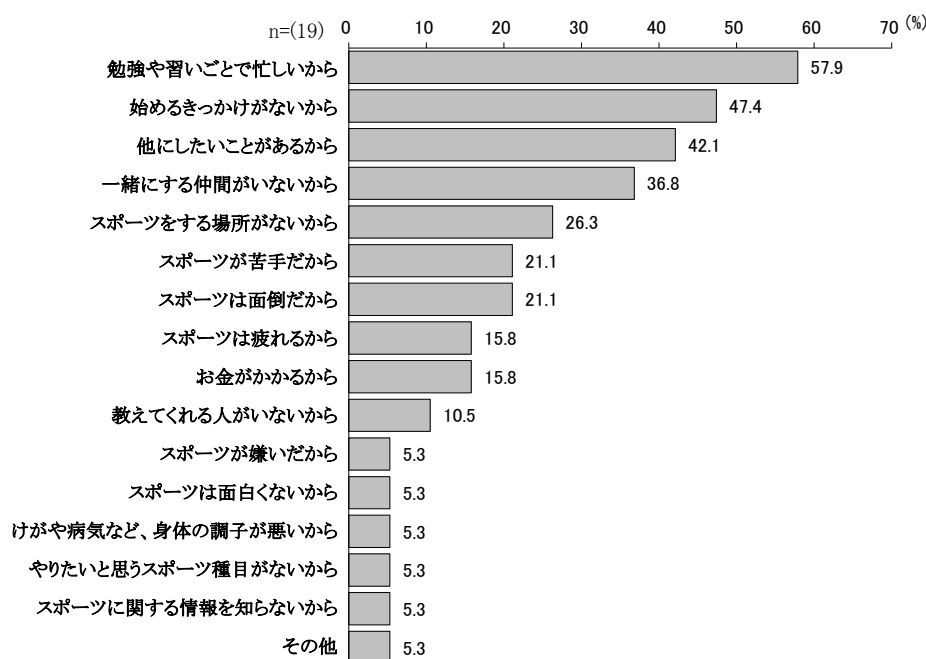
今回の調査に現れたニーズの違いについては、スポーツイベントや教室の今後の企画、広報の際の参考とし、世代ごとに興味・関心の高いプログラムの提供に活かしていきます。

【3】 スポーツをしない理由について

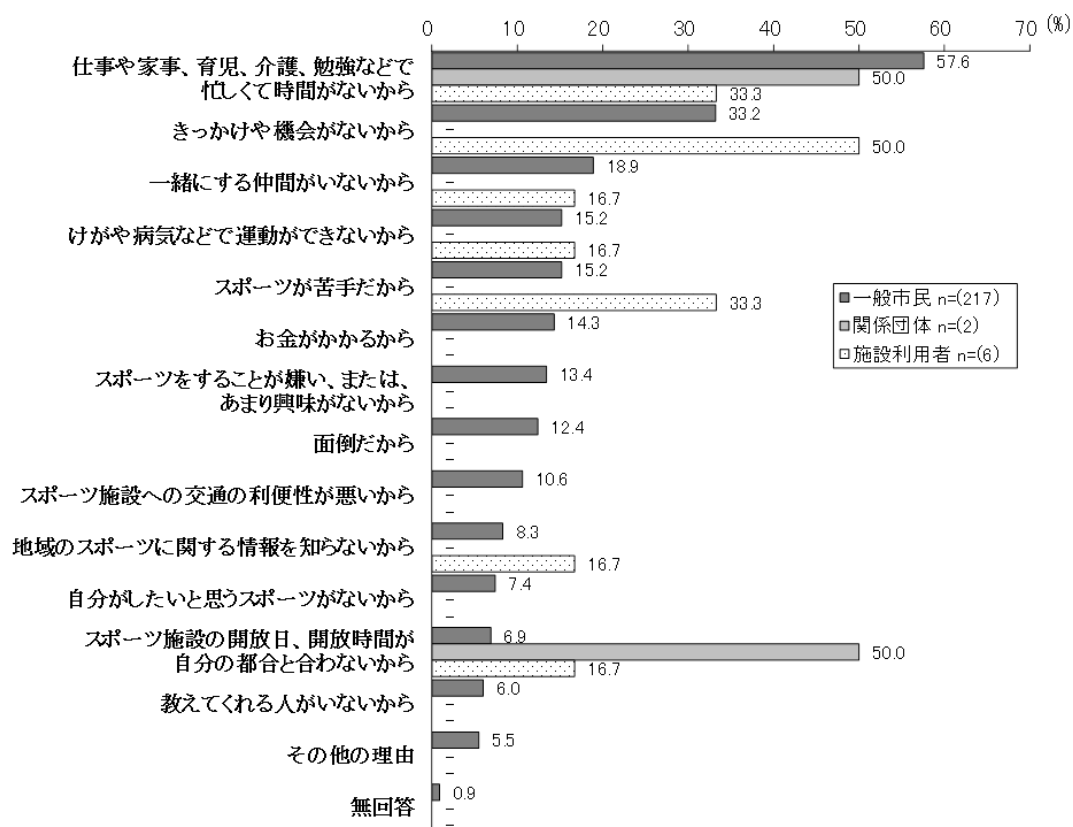
「運動をほとんどしない」と回答した方（高校生 19 名、成人一般 217 名、関係団体 2 名、施設利用者 6 名）の理由の 1 番目には「勉強や習いごとで忙しいから（高校生 57.9%）」「仕事や家事、育児、介護、勉強などで忙しくて時間がないから（成人一般 57.6%、関係団体 50.0%、施設利用者 33.3%）」が挙げられており、時間の捻出が大きな壁となっていることがわかります。また、理由の 2 番目として「きっかけがないから」（高校生・成人（一般））が挙げられています。市が進めている「きっかけづくり」を目的とした事業展開には一定のニーズがあることがわかります。

引き続き「きっかけづくり」に取り組むとともに、隙間時間におこないやすい、一人でもできるスポーツの紹介や体験などのプログラムの充実も求められていると考えられます。

■ スポーツや運動をしない理由



高校生：平成 27 年度武蔵野市スポーツに関するアンケート調査



成人：平成 27 年度武蔵野市スポーツに関するアンケート調査

【4】 観戦したいスポーツについて

観戦したいスポーツでは、高校生、成人（一般、関係団体、施設利用者）ともに野球やサッカー、テニス、フィギュアスケート、体操、バスケットボール、バレーボールなど種目が上位に入っています。

これらの競技は新聞やテレビなどのメディアに取り上げられることも多いことから、引き続き興味・関心の高い傾向が続くことが想定されます。

なお、平成 31 年にワールドカップが日本で開催されるラグビーは、高校生が 28 位と低く、成人は一般と施設利用者が 13 位、関係団体が 16 位となっています。

■観戦したいスポーツ

(%)			(%)		
順位	高校生 (n=116)		順位	成人【一般市民】 (n=721)	
1位	野球	40.5	1位	サッカー	39.9
2位	サッカー	39.7	2位	野球	39.7
3位	テニス	38.8	3位	フィギュアスケート	31.6
4位	フィギュアスケート	31.9	4位	テニス	27.2
5位	バスケットボール	26.7	5位	体操	20.0
6位	バレーボール	20.7	6位	水泳	18.3
7位	体操	17.2	7位	バレーボール	17.6
8位	水泳	15.5	8位	マラソン・駅伝	17.1
9位	バドミントン	12.1	9位	陸上競技	16.1
9位	マラソン・駅伝	12.1	10位	相撲	14.3
11位	陸上競技	11.2	11位	ゴルフ	13.6
12位	卓球	10.3	12位	バスケットボール	11.2
13位	アーチェリー	8.6	13位	ラグビー	10.7
13位	射撃	8.6	14位	シンクロナイズドスイミング	9.6
13位	スノーボード	8.6	15位	卓球	8.6
16位	アメリカンフットボール	7.8	16位	スキー	8.3
16位	シンクロナイズドスイミング	7.8	17位	アメリカンフットボール	6.7
18位	フェンシング	6.9	17位	柔道	6.7
18位	馬術	6.9	17位	馬術	6.7
18位	スキー	6.9	20位	ボクシング	6.0
21位	車いすバスケットボール	6.0	20位	スノーボード	6.0
22位	ハンドボール	5.2	22位	バドミントン	5.5
22位	柔道	5.2	23位	トライアスロン	5.3
22位	トライアスロン	5.2	24位	スピードスケート	5.1
22位	カーリング	5.2	25位	カーリング	4.3
26位	レスリング	4.3	26位	自転車	4.2
26位	自転車	4.3	27位	フェンシング	3.9
28位	ラグビー	3.4	28位	車いすバスケットボール	3.7
28位	相撲	3.4	28位	車いすテニス	3.7
28位	スピードスケート	3.4	30位	アイスホッケー（ホッケー）	3.5
31位	アイスホッケー（ホッケー）	2.6	31位	アーチェリー	3.2
31位	ラクロス	2.6	32位	その他障がい者スポーツ	3.1
31位	車いすテニス	2.6	33位	レスリング	2.6
31位	ゴールボール	2.6	34位	射撃	2.5
31位	その他障がい者スポーツ	2.6	35位	ハンドボール	1.5
36位	ゴルフ	1.7	36位	ラクロス	1.4
36位	ボクシング	1.7	37位	カヌー	1.2
36位	カヌー	1.7	38位	ボート	0.8
36位	ボッチャ	1.7	39位	ウェイトリフティング	0.7
40位	ウェイトリフティング	0.9	39位	テコンドー	0.7
40位	テコンドー	0.9	39位	ボッチャ	0.7
	ボート	-	42位	ゴールボール	0.3
	その他	3.4		その他	5.0
	無回答	2.6		無回答	7.2

(%)		
順位	成人【関係団体】 (n=86)	
1位	野球	37.2
2位	フィギュアスケート	33.7
2位	テニス	33.7
4位	体操	30.2
5位	サッカー	27.9
6位	水泳	25.6
7位	マラソン・駅伝	22.1
7位	バスケットボール	22.1
9位	バレーボール	20.9
9位	シンクロナイズドスイミング	20.9
11位	ゴルフ	18.6
12位	陸上競技	16.3
13位	バドミントン	14.0
14位	相撲	12.8
14位	車いすバスケットボール	12.8
16位	ラグビー	11.6
16位	柔道	11.6
16位	馬術	11.6
16位	車いすテニス	11.6
20位	スキー	10.5
21位	卓球	9.3
22位	アメリカンフットボール	5.8
22位	ボクシング	5.8
22位	トライアスロン	5.8
22位	アイスホッケー (ホッケー)	5.8
26位	カーリング	4.7
26位	その他障がい者スポーツ	4.7
28位	フェンシング	3.5
28位	レスリング	3.5
28位	射撃	3.5
28位	ハンドボール	3.5
32位	スノーボード	2.3
32位	スピードスケート	2.3
32位	自転車	2.3
32位	アーチェリー	2.3
32位	ゴールボール	2.3
37位	ラクロス	1.2
37位	カヌー	1.2
37位	テコンドー	1.2
37位	ポッチャ	1.2
	ボート	-
	ウェイトリフティング	-
	その他	7.0
	無回答	4.7

(%)		
順位	成人【施設利用者】 (n=178)	
1位	フィギュアスケート	33.7
2位	サッカー	32.6
3位	体操	30.3
4位	野球	29.2
5位	テニス	28.7
6位	水泳	23.6
7位	シンクロナイズドスイミング	20.8
8位	マラソン・駅伝	19.7
9位	陸上競技	19.1
10位	バスケットボール	18.5
11位	バレーボール	17.4
12位	相撲	12.9
13位	ラグビー	12.4
14位	バドミントン	10.7
14位	スキー	10.7
16位	卓球	9.6
17位	柔道	9.0
18位	ゴルフ	8.4
19位	スノーボード	7.3
20位	レスリング	6.7
21位	ボクシング	6.2
21位	スピードスケート	6.2
23位	車いすバスケットボール	5.1
23位	馬術	5.1
23位	カーリング	5.1
26位	車いすテニス	4.5
26位	トライアスロン	4.5
28位	フェンシング	3.9
28位	自転車	3.9
30位	ラクロス	3.4
31位	アメリカンフットボール	2.8
31位	アイスホッケー (ホッケー)	2.8
31位	ハンドボール	2.8
31位	アーチェリー	2.8
35位	その他障がい者スポーツ	1.7
35位	射撃	1.7
35位	テコンドー	1.7
38位	ウェイトリフティング	1.1
39位	ゴールボール	0.6
39位	ポッチャ	0.6
39位	ボート	0.6
	カヌー	-
	その他	3.9
	無回答	6.2

高校生・成人（一般・関係団体・施設利用者）：平成 27 年度武蔵野市スポーツに関するアンケート調査

【5】オリンピック・パラリンピック競技大会東京開催、ラグビーワールドカップ日本開催について

「オリンピック・パラリンピックへの気持ち」に対する回答では、「試合を見に行ってみたい（小学生 60.6%、中学生 66.4%）」をはじめとして、子どもたちの興味・関心の高さがうかがえます。

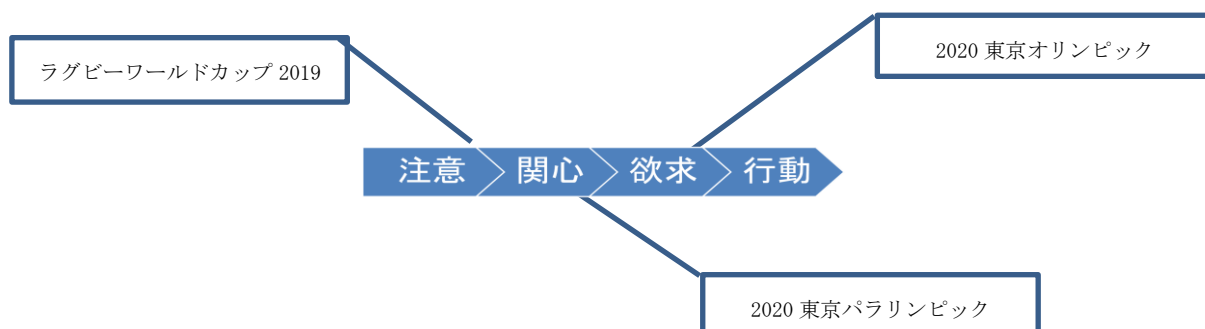
高校生や成人においてもオリンピックを競技会場やテレビ・ラジオ等で観戦したい市民が 80%を超えており、関心の高さがうかがえます。

一方、「競技会場で直接観戦したい」と回答した割合について、オリンピックとパラリンピックとの差をみると、高校生で 27.6%、成人の一般で 26.1%、関係団体で 23.2%、施設利用者で 25.9%パラリンピックの方が低くなっており、また「観戦したいとは思わない」の割合は逆にパラリンピックの方が高くなっています。

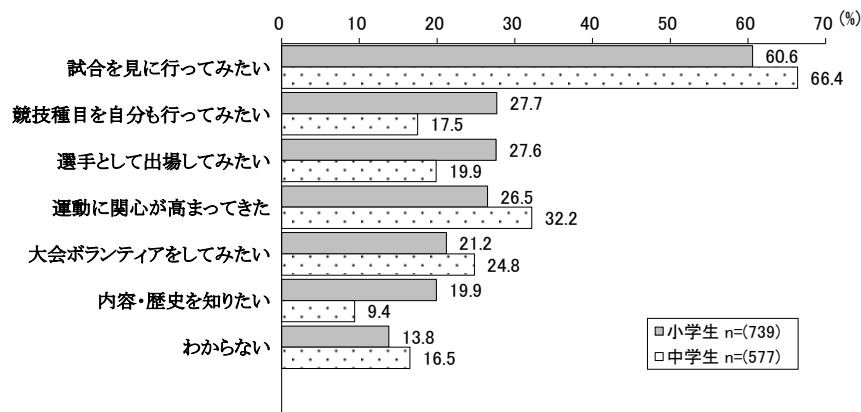
日本で開催されるラグビーワールドカップ 2019 については、「知らなかった」と回答した高校生が 44.0%（別冊「武蔵野市スポーツについてのアンケート調査報告書」p78）となっているほか、競技場で観戦したいとの回答もオリンピックに比べて低くなっています。その後ラグビーワールドカップ 2015 イングランド大会での日本の活躍もあって一時的な認知度の上昇がみられていますが、引き続き競技のもつ魅力や大会の認知度の向上に取り組んでいく必要があると考えられます。

市民が大会を認識してから実際の行動（会場に足を運ぶなど）につながるまでの段階を「注意→関心→欲求→行動」の categories に分類した場合、ラグビーワールドカップについてはまず「注意→関心」の段階を視野に入れた取組みを、パラリンピックについては「関心→欲求」の段階を視野に入れた取組みを、そしてオリンピックについては「欲求→行動」の段階を視野に入れた取組みを重点に進めていくことが必要であると考えられます。

■市民の各大会に対する認識

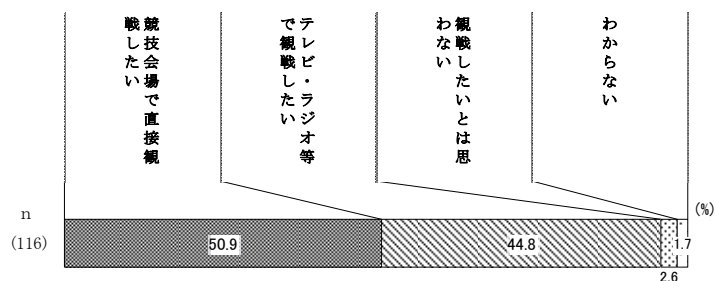


■オリンピック・パラリンピックへの気持ち

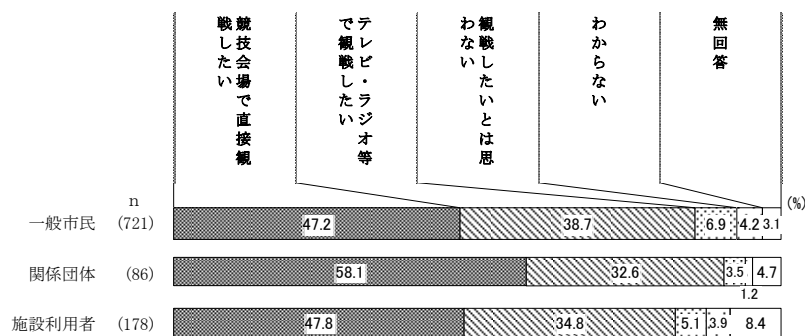


小学5年生・中学2年生：平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査

■オリンピックについて

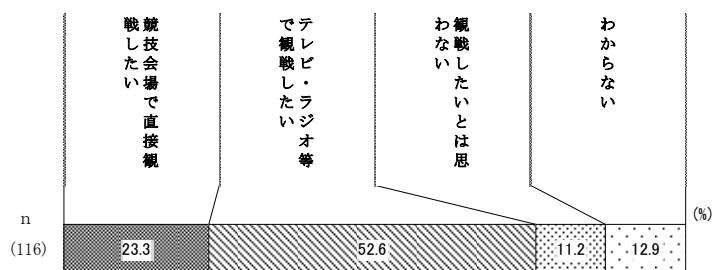


高校生：平成27年度武蔵野市スポーツに関するアンケート調査

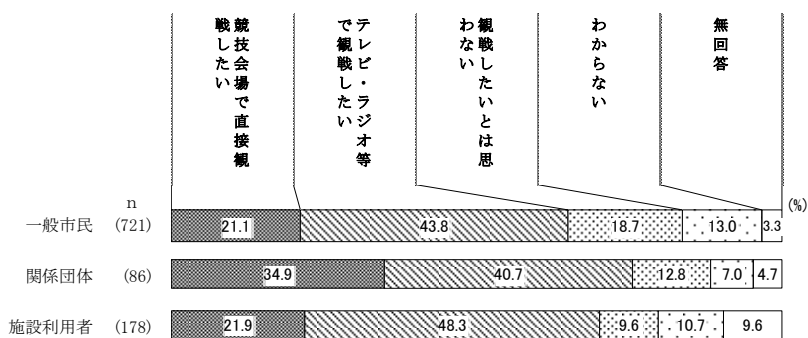


成人：平成27年度武蔵野市スポーツに関するアンケート調査

■パラリンピックについて

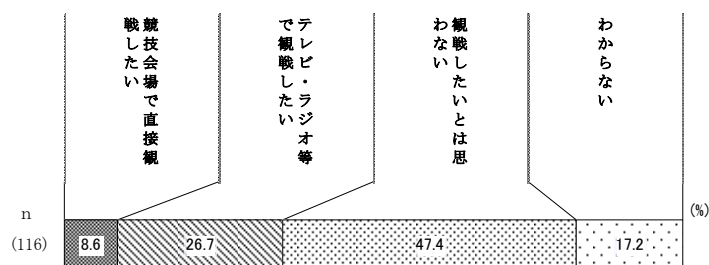


高校生：平成 27 年度武蔵野市スポーツに関するアンケート調査

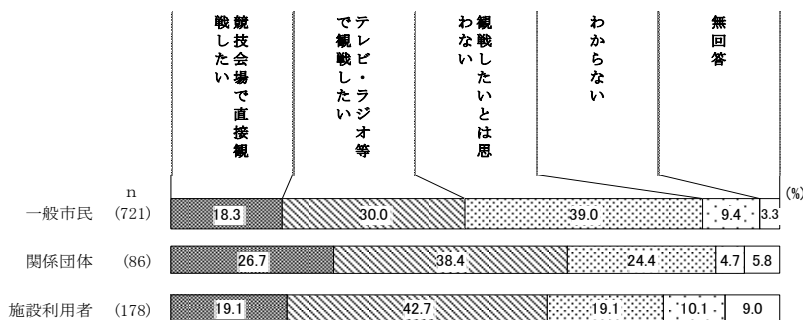


成人：平成 27 年度武蔵野市スポーツに関するアンケート調査

■ラグビーワールドカップについて



高校生：平成 27 年度武蔵野市スポーツに関するアンケート調査



成人：平成 27 年度武蔵野市スポーツに関するアンケート調査

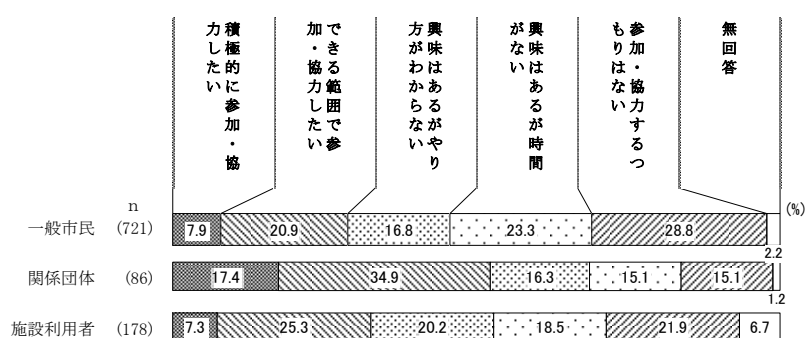
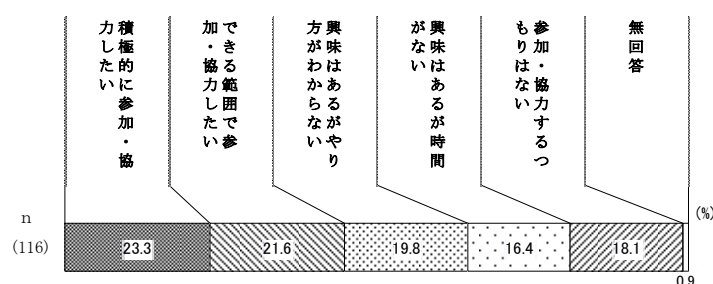
※ 本調査はラグビーワールドカップ 2015 イングランド大会開催前に実施しています。

【6】オリンピック・パラリンピック等へのボランティア参加について

大会へのボランティア参加について、オリンピック・パラリンピック東京大会に対して「積極的に参加・協力したい」と「できる範囲で参加・協力したい」と回答した割合は、高校生で 44.9%、成人一般が 28.8%、関係団体が 52.3%、施設利用者が 32.6%となっています。

今後、組織委員会や東京都によって直接大会運営に関わるボランティアが組織化されていくことが予定されています。これらに協力するとともに、オリンピック等国际大会で盛り上がったボランティア活動に対する機運を、大会後も市のスポーツ施策や地域の活性化に生かしていけるよう、検討をすすめていく必要があります。

■オリンピック・パラリンピック競技大会へのボランティア参加について



(2) 国や東京都、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の取組みについて

■国の取組み

オリンピック・パラリンピックの東京開催やラグビーワールドカップの日本開催が決定して以降、国はスポーツ庁の設置など体制を整えるとともに、その取組みを積極的に推進しています。教育委員会に関連の深いものとして、主に以下の取組みが挙げられます。

- ・スポーツ基本計画の策定（平成 24 年 3 月）
- ・スポーツ庁の設置（平成 27 年 10 月 1 日）
- ・「文化芸術の振興に関する基本的な方針－文化芸術資源で未来をつくる－（第 4 次基本方針）の策定（平成 27 年 5 月 22 日閣議決定）」
- ・オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議の設置・検討（平成 27 年 7 月 9 日中間まとめ発表）
- ・内閣官房によるホストタウン構想

■東京都の取組み

東京都においても、特にオリンピック・パラリンピック開催都市として積極的にメッセージを発信するとともに、国に先んじた取組みも進めています。

主なものとして以下の取組みが挙げられます。

- ・東京都障害者スポーツ振興計画の策定（平成 24 年 3 月）及び東京都スポーツ推進計画の策定（平成 25 年 3 月）
- ・東京文化ビジョンの策定（平成 27 年 3 月）
- ・区市町村に対する政策誘導（補助金の創設・増額等）
- ・オリンピック・パラリンピック教育推進校の指定（平成 26・27 年度）
- ・「東京オリンピック・パラリンピック教育」実施方針の策定（平成 28 年 1 月）
- ・「2020 年に向けた東京都の取組－大会後のレガシーを見据えて－」の策定（平成 27 年 12 月）

■東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の取組み

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下「組織委員会」という）では、大会開催に向けたビジョンや大会プランの作成、オリンピック・ムーブメント(*1)に基づくイベントの開催などに取り組んでいます。

教育委員会に関連の深いものとしては以下のとおりです。

- ・大会ビジョン（「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」）の発表

- ・「東京 2020 大会開催基本計画（平成 27 年 2 月）」の策定
 - ・「アクション&レガシープラン」策定に向けた検討（平成 28 年 1 月中間まとめ発表）
- 【スポーツ・健康】【街づくり・持続可能性】【文化・教育】【経済・テクノロジー】
【復興・オールジャパン・世界への発信】の 5 本の柱で検討していく。2016 年 8 月・9 月にリオデジャネイロで開催されるオリンピック・パラリンピック競技大会前に「アクション&レガシープラン 2016」を公表し、毎年改定する予定。

(*1) オリンピック・ムーブメントとは、国際オリンピック委員会（IOC）の統括のもと、オリンピックの精神（オリンピズム）に従って、スポーツ通じて平和でよりよい世界の実現をめざす活動です。この活動は世界中で行われており、オリンピックの五輪のマークがそのシンボルとされています。

2 教育委員会の取組みの方向性

オリンピック憲章には、オリンピズムの根本原則が記されています。その中では、「オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探究するものである」こと、「スポーツを人類の調和の取れた発展に役立てることにある」こと、そして「スポーツをすることは人権の1つである」ことなどが述べられています。

教育委員会では、これらの根本原則に示された理念を尊重するとともに、平成 32 (2020) 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催以降も見据えた方向性を以下にまとめ、取組みを進めていきます。

＜教育委員会の取組みの方向性＞

- 1 スポーツが広く市民生活の彩りの一つとして日常に存在するものとなるよう、「観る」「体験する」スポーツの充実を通して市民のスポーツへの興味・関心を高め、これらを「行動」へとつなげていきます。
- 2 スポーツ振興と学校教育との連携を深め、子どもたちの運動習慣の定着と体力向上の取組みを強化するとともに、子どもたちがオリンピック・パラリンピック教育を通して国際親善や世界平和に果たす役割を理解し、国際理解や障害者理解、スポーツを通じた心身の調和的な発達により進んで平和な社会の実現に貢献できる力を育てます。
- 3 オリンピック・ムーブメントは、スポーツを「学ぶ」ことや「支える」ことへの関心も高めます。生涯学習事業とも連携し、市民の多様な学びの場を提供するとともに、ボランティア活動への参加を促進します。
- 4 平成 32 年は東京で2度目のパラリンピック開催であり、これは同一都市として初めてのことになります。計画の重点施策である「誰もが楽しめる機会の充実」(計画 p32) の促進とともに障害(者)への理解や障害者スポーツを支える人材の育成に取り組めます。また、誰もが共に楽しめるスポーツ活動の機会を創出します。
- 5 オリンピック等国際大会の国内開催を契機として、市民が一層スポーツを楽しむことができるよう、体育施設の適切な管理・運営に努め、よりよい環境となるよう必要な改修を進めます。
- 6 オリンピック・パラリンピックはスポーツだけでなく文化の祭典でもあり、そこには教育委員会内にとどまらない幅広い分野での取組みが必要となってきます。

他の分野との連携によるスポーツ施策の推進とともに文化施策との連動を図り、オリンピック等国際大会が広く市民文化の醸成につながるよう取り組みます。

3 今後の取組み

(1) スポーツの振興・啓発

現計画では、市民がスポーツをより身近なものと感じることができ、気軽に楽しむことができるよう、スポーツの概念を幅広く捉えています（計画 p15）。

今後一層スポーツが身近になり、市民の日常生活の中に溶け込んでいくことができるよう、スポーツ推進委員や体育協会等との連携を深めながら、オリンピック等国際大会を契機として以下の取組みをおこなっていきます。

体験の充実	市民がオリンピック・パラリンピック種目をはじめとした様々な種目を体験し、スポーツへの興味・関心を高めることができるよう、体験イベントを充実します。 ・オリンピック・パラリンピック種目等の体験イベントの開催 ・ファミリースポーツフェア、スポーツフェスティバル等を活用した体験の充実
観るスポーツの充実・大会誘致	市の体育施設では、多くの魅力ある大会が開催されています。新たな大会の招致も含めてこれらを市民に効果的に周知し、市民が気軽にスポーツを観る機会を提供し、スポーツに親しむ機運の醸成につとめます。 また、オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ出場国のチームキャンプ誘致を通じて、子どもたちを含む市民が一流の選手やチームに触れる機会の創出を目指します。 ・武蔵野市を拠点として活動するチームを観る・応援する機運の醸成 ・魅力ある大会等の招致と市民への広報 ・国際大会出場選手やチームに触れる機会の創出

大会出場へ挑戦する市民等への支援	本市にゆかりのある選手がオリンピック等国際大会への出場に挑戦することを市民が応援することは、スポーツ振興のみならず市への愛着にもつながります。市民同士が応援しあう機運の醸成などに取り組みます。 ・市民が市民を応援するプログラムの企画
スポーツ教室の充実と体育協会等との連携	忙しさからなかなか時間の確保が難しい市民や、きっかけを得られずに運動習慣の定着に至っていない市民が、身近な場所でスポーツを始めるきっかけをつかむことができるよう、スポーツ教室のプログラムの工夫やスポーツ推進委員によるきっかけづくりの提供を推進します。 また、体育協会加盟団体等の活動を支援することにより、市民が継続的にスポーツ活動をおこなえる環境の充実や、大会等への参加によって記録や勝つことへの挑戦ができる環境の充実を図ります。 ・（公財）生涯学習振興事業団によるスポーツ教室の充実 ・スポーツ推進委員による手軽にできるスポーツの紹介等 きっかけづくりの提供 ・体育協会加盟団体による活動の支援
子育て世代へのスポーツ振興	子育て世代が親子の絆を深めたり、リフレッシュしたりするために、スポーツには大きな貢献が期待できます。子育て世代がスポーツを楽しむことができるよう、取組みを充実します。 また、アンケート結果を踏まえ、家族で自然体験などができる機会の提供も充実していきます。 ・スポーツ施設利用時の一時保育支援の充実 ・大会・イベント等に親子で参加・観戦する機会の充実 ・ファミリースポーツフェア等による親子の触れ合いの場の提供 ・（公財）生涯学習振興事業団による自然体験教室等の充実

ボランティア活動への 機運醸成	オリンピック等国際大会の運営に何らかの形で関わることは、大きなライフイベントとして人々の記憶に残ることになります。 東京都や組織委員会が進めているボランティア活動の状況把握につとめつつ、市民がボランティアとして大会に関わり、スポーツを支える側でも活躍できるよう、大会に向けてボランティア活動への機運を醸成していきます。 ・ボランティア活動への機運醸成
--------------------	--

(2) 学校教育との連携

国や都の体力・運動能力、運動習慣等調査によると、本市の児童・生徒の体力は国平均より全体的に低い結果となっています。そして都平均との比較では、持久力や走力が高いものの、筋力や投力、敏捷性に課題がある傾向となっています。

子どもたちが生涯に渡って健康で心身ともに豊かな生活を送っていくことができるよう、体力向上に向けた取組みを充実させていくとともに、オリンピック・パラリンピック教育を通じた学びの機会の提供等、学校教育と連携した取組みを進めていきます。

運動習慣の定着と体力向上を目的とした教育活動の充実	子どもたちが体育の授業等を通じてスポーツを好きになり、体力・運動能力を向上していけるよう、各校の取組みを教育委員会として支援するとともに、指導する側の充実も図っていきます。 ・タグラグビーの導入・拡充など体育の時間を活用した取組みの充実 ・市内中学校総合体育大会の充実 ・オリンピック・パラリンピック教育推進校(H26～H27)での取組みを土台とした各校の取組みの支援 ・体育を専門とする学習指導員の導入校の拡充
障害者スポーツ競技の体験や大会の観戦を通じた障害者理解の促進	障害者スポーツ競技の中には、障害の有無にかかわらず一緒に競技をおこなうことのできる種目もあります。 子どもたちが障害者スポーツを体験できる機会を設け、競技の難しさやそれにチャレンジする障害者の姿に直接接

	し、気づきと学びを得ることができるよう取組みを進めます。 ・障害者スポーツを観る・触れる・体験する機会の充実
オリンピック・パラリンピック教育の推進	オリンピック・パラリンピックの理念やその歴史的背景を学ぶとともに、選手の体験やエピソード、また様々な国の文化に触れることは、子どもたちの知性・感性を磨きます。スポーツをきっかけとした学びの充実を図っていきます。 ・オリンピック・パラリンピックに関する学びの機会の充実 ・自国文化や他国文化の理解、国際理解の促進 ・おもてなしの精神やボランティア精神の醸成

(3) 生涯学習事業との連携

スポーツは、競技の持つ技術的・戦略的な側面を知ったり、歴史ある大会が経てきた時代背景を知ったり、一流選手の挑戦する姿や技術力の高さを知ったりすることでその魅力を一層感じることができます。このことはスポーツへの興味・関心を高め、自らスポーツをおこなう大きな動機付けにもつながります。

生涯学習プログラムを通じてスポーツの魅力を提供していきます。

スポーツの魅力を伝える生涯学習プログラムの提供	オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップの日本開催を契機として、大学等との連携も図りながら、生涯学習プログラムを提供します。 ・オリンピック等国際大会に関する理解を深める機会の充実 ・オリンピック・パラリンピアン等の一流選手やその指導者による講演会の開催 ・スポーツを通じた身体、健康、メンタル等に関する学びの機会の提供 ・ボランティアをはじめとした大会を支える存在に対する
-------------------------	--

	理解を深める講座の開催 ・図書館における資料の充実と展示
--	---

(4) 障害者スポーツの推進

平成 32（2020）年の東京パラリンピック競技大会の開催は、障害者スポーツの理解と普及、その先にある共生社会の実現に向けて大きな機会であるといえます。

本市においても障害者スポーツへの取組みを通じて、誰もがスポーツを楽しめる機会の充実を図ります。

障害者がスポーツを楽しめる機会の充実	（公財）生涯学習振興事業団がおこなっている障害者を対象としたスポーツ教室の充実や、障害者スポーツを支える人材の育成につとめ、障害者が身近な場所でスポーツを楽しめる機会の充実を図ります。 ・障害者がスポーツを楽しめる機会の充実 ・障害者スポーツ指導員の養成 ・障害の有無にかかわらず、共にスポーツを楽しむ機会の創出
障害者スポーツの理解促進	障害者スポーツ大会の開催や体験イベントの開催を通じて、障害者スポーツの理解を促進し普及を図るとともに、競技の持つ面白さや難しさを伝え、障害者スポーツを応援する市民の拡大を図ります。 ・障害者スポーツ大会の開催 ・障害者スポーツを体験する機会の充実 ・オリンピック・パラリンピアン等の一流選手やその指導者による講演会の開催（再掲）

(5) 体育施設の改修・整備

施設の改修・整備にあたっては、「武蔵野市公共施設再編に関する基本的な考え方（平成 25 年 3 月）」及び「第五期長期計画・調整計画案（平成 27 年 9 月）」での記述を踏まえた上で、先に述べた取組みの方向性の実現や市民アンケートにおけるスポーツ施設の整備・充実を求める声への対応、施設の老朽化等に対する適切な整備を総合的に勘案し、取り組んでいきます。

<参考>

- 「武蔵野市公共施設再編に関する基本的な考え方（平成 25 年 3 月）」
市の公共施設は『長寿命化を図りながら、原則 60 年は使用していく』こと、『施設の統廃合等による施設総量の縮減を図るとともに、複合化や転用など既存施設を有効活用することによる新たな施設建設を抑制していく』ことが定められています。
- 「第五期長期計画・調整計画案（平成 27 年 9 月）」
「Ⅲ 文化・市民生活― 基本施策 4 市民の多様な学びやスポーツ活動へ支援―（2）スポーツの振興と施設の再整備」の中で、『市民の生涯学習・スポーツ活動を支援するため、総合体育館、温水プールなど既存施設は、バリアフリーをはじめとする整備・更新を計画的に行う。また、旧桜堤小学校跡地へのスポーツ広場の設置については、桜野小学校の児童数の推移などを勘案したうえで整備を検討する。』と記述されています。

各施設の状況等を考慮した上で、本計画期間内における施設整備の基本的な考え方を以下のとおり整理しました。なお、主な施設ごとの課題や整備への取組みについては、基本的な考え方のあとに記載しています。

<本計画期間内における施設整備の基本的な考え方>

- ① 総合体育館メインアリーナ、サブアリーナの天井改修とこれに伴う整備を最優先とします。
- ② 施設の利便性の向上とともに「観るスポーツ・体験するスポーツ」を積極的に推進するため、本計画期間内では陸上競技場及び付随施設の整備・改善を重点的に進めていきます。
- ③ 障害者スポーツの振興支援及び障害者の利便性向上を目的とした施設整備を着実に進めます。

総合体育館 平成元年 9 月竣工

- ・ 総合体育館については、これまでも競技に影響を与えない空調設備の整備（メインアリーナ）など、適切な施設整備を進めてきました。以下に記載の項目を踏まえ、引き続き必要な整備を進めます。
- ・ 平成 26 年 4 月 1 日に改正建築基準法施行令が施行されたことにより、全国的に既存施設の吊り天井の多くが既存不適格となりました。メインアリーナ及びサブアリーナの天井部分（非構造部材）についても同様です。耐震診断や具体的な補強の方法が未だ確立されていない状況ではありますが、当施設が大規模災害発生時に物資の保管や供出などの役割を果たすことも考慮し、大規模地震の発生及び連動する大きな余震の発生を想定した天井改修工事を最優先で実施します。
- ・ 長寿命化を見据えた場合、配管や機械設備の更新も含めた大規模改修を検討する必要がありますが、昨今の建築資材の高騰や工事に必要な人員の不足といった影響を鑑み、長寿命化を目的とした大規模施設・設備改修は平成 32 年開催のオリンピック・パラリンピック競技大会開催以後にこれを検討し実施します。
- ・ トイレの洋式化は、障害者や高齢者の利用などを考える上で重要であることからこれを進めます。なお、水回りの設備の抜本的な改善は配管工事を伴う大規模修繕となるため、長寿命化工事の際ににあわせておこなうものとしします。
- ・ 車椅子用観客席やサイン表示などの改善に取組み、障害者の利便性の向上につとめます。
- ・ その他、更衣室のロッカー等利用者の利便性の向上につながる備品購入や、施設の維持に必要な修繕等の工事についてはこれを着実に進めます。

陸上競技場（平成元年 9 月竣工）

- ・ 陸上競技場について、これまでも長年の課題であった芝生の改良工事や、（公財）日本陸上競技連盟による第 3 種公認の認定更新など、必要な施設整備をおこなってきました。以下の項目を踏まえるとともに引き続き必要な整備を進めます。
- ・ 陸上競技場に付随するトイレやシャワーなどについて改善を進め、トイレの洋式化や車椅子用観客席の整備、サイン表示の改善など高齢者や障害者にとって利用しやすい施設整備を進めます。
- ・ 市内中学校総合体育大会など多くの参加者が集まる大会や規模の大きな大会、プロのチーム等がおこなう試合の実施は「観るスポーツ」や「体験するスポーツ」の推進につながります。チーム室の設置やロッカールーム、

ダッグアウトの改善を図ります。

- ・ 観客席（スタンド席・芝生席）の整備や音響等については中・長期的な課題に位置付け、引き続き検討を進めます。

屋内プール（平成元年9月竣工）、**管理棟**（昭和57年5月竣工）、**屋外プール**

- ・ プール施設についても、異性介助者と一緒に利用できる更衣室の設置といった利便性の向上も含め、施設の維持に必要な整備にこれまでも取り組んできました。
- ・ しかし、管理棟、屋内プールは施設の老朽化が進んでおり、またバリアフリーの観点からも課題の多い施設となっています。引き続き必要な整備をおこなっていくとともに、次期計画策定にあわせて施設のあり方を検討します。

旧桜堤小学校跡地

- ・ 桜野小学校児童数の増加を鑑み、校庭利用を前提とした暫定広場とします。
- ・ 暫定広場の活用については、桜野小学校や第二中学校による利用を踏まえて検討します。

その他の主な施設

本計画期間内における、その他の主な施設の整備は以下の通りとします。

軟式野球場	：現状の性能を維持できるよう、必要な維持修繕をおこなっていきます。なお、防球フェンスの改善について引き続き検討します。
テニスコート	：クリーンセンター周辺整備と関連しますが、当面現状の性能を維持できるよう、必要な維持修繕をおこなっていきます。
緑町スポーツ広場	：現状の性能を維持できるよう、必要な維持修繕をおこなっていきます。
ストリートスポーツ広場	：施設整備も含めた今後の施設の利活用について検討します。
そ の 他	：都立中央公園内に設置されている中央公園スポーツ広場については、設置者である東京都の意向を踏まえながら利用環境の充実について検討します。

(6) 他部門との連携

オリンピック・パラリンピックはスポーツだけでなく文化の祭典でもあり、国や都、組織委員会も幅広い分野での取組みを進めています。

オリンピック等国際大会の開催は、様々な国の人々や文化に多く触れることができる機会でもあります。教育委員会が進めるスポーツ施策においても、積極的に他の分野との連携を図るとともに文化施策との連動を図り、オリンピック等国際大会が広く市民文化の醸成につながるよう取り組んでいきます。

他の分野との連携、文化施策との連動によるスポーツ施策の推進	国や都、組織委員会の取組みと整合性を図りつつ、平成 27 年 10 月に設置した「東京オリンピック・パラリンピック等国際大会関連事業庁内推進会議」との連携を図り、一体感を持った施策の推進に取り組みます。 ・国や都の文化の方針やビジョン、組織委員会が定める「アクション&レガシープラン」などとの整合性の取れたスポーツ施策の推進と文化施策との連動 ・「東京オリンピック・パラリンピック等国際大会関連事業庁内推進会議」との連携によるスポーツ施策の推進 ・国が推進する「ホストタウン」（平成 28 年 1 月 26 日登録決定）として、友好都市であるブラショフ市のあるルーマニア国とスポーツ・文化交流を行い、共生社会の実現、グローバル化の推進、地域活性化、観光推進等の実施
-------------------------------	---

Ⅲ 本市スポーツ施策の振興に向けて(計画改定に対する評価)

現計画の策定に携わっていただいた、本村清人公益財団法人日本学校体育研究連合会会長（策定委員会委員長）、河上一雄武蔵野市体育協会会長（策定委員会副委員長）、和田明子武蔵野市スポーツ推進委員協議会会長（策定委員会委員）に、この度の計画改定に対する評価とご意見をいただきました。

いただいた評価とご意見も踏まえ、引き続き本市スポーツ施策の着実な実施に努めます。

「武蔵野市スポーツ施策の振興に向けて（計画改定に対する評価）」

公益財団法人 日本学校体育研究連合会 会長 本村 清人
(武蔵野市スポーツ振興計画策定委員会 委員長)

この度、去る平成 21 年 4 月に策定した「武蔵野市スポーツ振興計画」を一部改定の運びとされたことは、平成 32(2020)年のオリンピック・パラリンピック競技大会東京開催、スポーツ基本法の制定、スポーツ庁の設置等から時を得たものと考えます。

ここで注目すべきは、一部とはいえ、改定するに当たって、「武蔵野市スポーツについてのアンケート調査報告書」（平成 27 年 10 月）をまとめていることです。つまり、これまでの施策の成果と課題をも探っていることから P D C A サイクルを踏まえた改定であることです。これによると、「スポーツの好感度」に対する肯定的評価は、高校生及び一般市民ともに 8 割以上。「スポーツや運動の頻度」は、週 1 回以上が高校生で約 7 割、一般市民で約 4 割。「スポーツや運動をする理由」は、高校生の約 6 割が「楽しいから」と答え、一般市民の約 6 割が「健康の維持・体力づくりのため」と答えている。スポーツや運動への欲求は大きく「楽しさ」と「健康・体力」にあるということが分かります。その意味で、現行の計画とその遂行は妥当なものであり、今後ともその充実を図ることで間違いはないということです。ただ、アンケート調査の回答率が高校生 38.7%、一般市民が 45.1%であるから元々スポーツや運動に関心が高い集団であることを考慮に入れる必要はあるでしょう。

さて、「教育委員会の取組みの方向性」で 6 項目があげられています。そのための具体的な施策も妥当なものと考えます。そのうちの 2 つについて述べます。1 つは「障害者スポーツの推進」です。障害者がスポーツを楽しめる機会の充実、そのための指導員の養成、障害の有無にかかわらず共にスポーツを楽しむ機会の創出等は積極的に進めていってほしい。その際、今日の障害者スポーツは、どちらかといえば競技性が高く、後天性の障害による肢体不自由な方の競技に注目が集まっているのが現状です。先天性の視覚障害や聴覚障害等の方へのスポーツ機会の創出もしっかり念頭に置くことも必要と考えます。特別支

援学校（級）との連携が必要です。

もう一つは、「学校教育との連携」です。生涯にわたってスポーツに親しむ資質や能力の育成、競技スポーツの良さに触れるためには学校における体育・スポーツとの連携が必要不可欠です。小学校体育連盟（研究会）、中学校体育連盟（保健体育研究会）との連携を深める中で、体育の授業づくりと運動部活動の充実のための施策は欠かせないものです。

最後に一つ考えさせられることがありました。総合型地域スポーツクラブのことです。これだけスポーツに関する行政サービスが行き届くと、経営的にも自主自立を求める総合型地域スポーツクラブは育たないのではないか。その兼ね合いが難しい。

いずれにせよ、スポーツを文化として誰もが享受することのできる環境づくりが、一部改定とはいえ、この計画の柱であることを確認することができました。

「武蔵野市スポーツ振興計画一部改定」に対する評価と意見

武蔵野市体育協会 会長 河上 一雄

（武蔵野市スポーツ振興計画策定委員会副委員長）

武蔵野市スポーツ振興計画が平成 21 年 4 月に策定されて以来、市民のスポーツをめぐる環境に大きな変化が生まれてきた。策定以降、東京多摩地区を主たる会場として開催された国民体育大会、武蔵野市はバスケットボールとラグビーの会場となり多くの市民が観戦・応援し、かつボランティアとして大会運営の手伝いを行い、大会を成功に導くとともに、その後に開催された障害者の大会においても障害者スポーツへの理解と認識を深めたところである。さらには、オリンピック・パラリンピックの東京開催の決定、ラグビーのワールドカップの日本での開催などスポーツのビッグ・イベントの連続しての開催予定により、スポーツへの関心は大いに高まっている。

こうしたスポーツをめぐる環境の大きな変化と市民のスポーツによせる関心と期待が高まる環境の変化に対応して、スポーツ振興計画をブラッシュ・アップすることは当然であろう。

この度の改定では、スポーツ環境の変化、ことにオリンピック等の東京開催を見据えてスポーツ振興をどう進めるかについて、市民の状況についての分析を行っている。なかでも、文部科学省による小・中学生のスポーツテストの結果も公表されているなか、市内の中学生の状況は全国平均より低く、このことに留意してゆくことが望まれ、改善策も具体的に提案することが必要と考える。

また、今ラグビーへの関心が高まっているが、現状のラグビー人口を考えると将来がどうなるか不安で、ことに武蔵野市においては企業等においてラグビー部があるが、全国の高等学校におけるラグビー人口の激減、指導者の減少といった状況を踏まえ、ムードではなく地道なスポーツ振興を図ることが望まれる。時のムードに流されるのではなく、地に着いたスポーツ活動の振興が望まれる。

また、スポーツ振興にかかわり施設・設備の充実が望まれ、市内の体育・スポーツ施設の老朽化に迅速に計画を立てて実施することが必要であり、かつ市内における施設の偏在を解消し、身近に施設があること、つまり「いつでも、どこでも身近に、気安く、手軽に、スポーツ」を標語に施設等の充実を図ることが期待される。

武蔵野市スポーツ振興計画の改定に寄せて

武蔵野市スポーツ推進委員協議会 会長 和田 明子
(武蔵野市スポーツ振興計画策定委員会委員)

この度の武蔵野市スポーツ振興計画の一部改定に際して意見を書いてほしいとの依頼をいただきました。教育委員会と一緒にスポーツ振興に取り組む立場から寄稿いたします。

平成 32 年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会は、その前年に開催されるラグビーワールドカップ開催を含めて、スポーツ振興に携わる者にとってこれ以上ないと言えるほどの大きな出来事です。この度の改定計画では、これらの大会に向けて、またその先までも見据えた教育委員会の取組みの方向性が出されました。私たちスポーツ推進委員にとって進むべき方向が示されたことは嬉しく思います。

また、私たちスポーツ推進委員は、市民がスポーツを気軽に始められるよう、ニュースポーツの普及などを通じたきっかけづくりを活動の中心に据えて日々取り組んでいます。改定計画の中でも、スポーツ推進委員によるきっかけづくりの提供を推進する旨が記載されています。これからの 5 年間はスポーツに対する興味や関心が高まることが予想されますので、この機会を大切にしながら、これからも着実に市民のきっかけづくりに取り組んでいきたいと思います。

そして、この度示された教育委員会の取組みの方向性の中には障害者スポーツに関する記述があります。私たちスポーツ推進委員も障害者スポーツの振興に向けた取組みを始めており、すでに「初級障がい者スポーツ指導員」資格を取得した推進委員もいます。この

改定計画にも書かれているように、障害の有無にかかわらず「誰もが共に楽しめるスポーツ活動の機会」の創出や充実については私たちもその活動の一助となれるよう取り組んでいきたいと思っています。

計画の中にはメインアリーナやサブアリーナ、陸上競技場などの施設改修に関する記述もあります。工事期間は施設が使えないなど不自由もありますが、これらの改修によって市民がより利用しやすくなり、また素晴らしい試合を身近な施設で観戦できる環境が整っていくことを楽しみにしています。

東京オリンピック・パラリンピックの開催はまだまだ先のことに感じていましたし、東京で開催されるという実感も持てずにいたのですが、このように計画に記載され、実際に取り組んでいく方向性が示されたことで、とても現実的なものとして感じられるようになってきました。個人としても、スポーツ推進委員協議会としても、教育委員会とともに市民の皆様へ向けてスポーツの持つ魅力や楽しさを伝えていきたいと思っています。

Ⅳ 資料

1 スポーツ祭東京2013における武蔵野市の取組みについて

平成25年9月から10月にかけて、東京都で54年ぶりの開催となる第68回国民体育大会と、東京都で初めての開催となる第13回全国障害者スポーツ大会をひとつの祭典とした「スポーツ祭東京2013」が開催されました。

本市の大会運営においては、市内の様々な関係団体の皆様をはじめ、延べ約500人のボランティア市民にご協力いただきました。また本市体育施設では7人制ラグビーフットボール競技とバスケットボール競技を開催し、都立中央公園スポーツ広場ではグラウンドソフトボール競技を開催しました。スポーツを観る、する、支える大会として本市のスポーツ振興に大きな成果のあった大会となりました。

この経験を、これからのオリンピック等国際大会における本市の取組みに活かし、さらなるスポーツ振興を図っていきます。

(1)事業の概要

スポーツ祭東京2013において、本市開催の競技会及びデモンストレーションとしてのスポーツ行事を運営しました。

① スポーツ祭東京2013

第68回国民体育大会と第13回全国障害者スポーツ大会を、スポーツの夢と感動を伝える一つの祭典として表す大会愛称。

会 期 平成25年9月28日（土）～10月14日（月）

会 場 地 62区市町村（都内全区市町村）

開閉会式会場 味の素スタジアム

スローガン 東京に 多摩に 島々に 羽ばたけアスリート

マスコットキャラクター 「ゆりーと」。都民の鳥「ゆりかもめ」がモチーフ。翼を大きく広げたデザインにより、夢や目標に向かって力強く羽ばたこうとする姿を表しています。



② 68回国民体育大会

都道府県持ち回りで毎年開催される国内最大の国民スポーツの祭典で、東京都での開催は54年ぶり3回目。

目 的 広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにする。

主 催 （公財）日本体育協会、文部科学省、東京都、（公財）日本体育協会加盟競技団体、会場地区市町村

大会会期 平成25年 9月28日（土）～10月8日（火）

実施競技 正式競技37競技、公開競技3競技、デモンストレーションとしてのスポーツ行事57行事

③ 第13回全国障害者スポーツ大会

都道府県持ち回りで、国体の開催都道府県で行われる障害者スポーツの全国的な祭典。東京都では初めての開催。

目 的 障害のある選手が、障害者スポーツの全国的な祭典であるこの大会に参加し、競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加の推進に寄与する。

主 催 厚生労働省、(公財)日本障害者スポーツ協会、東京都、会場地区市

大会会期 平成25年10月12日(土)～14日(月)

実施競技 正式競技13競技、オープン競技17競技

④ 武蔵野市での開催競技・スポーツ行事

■国民体育大会バスケットボール競技(正式競技)

大会名	種別	会期	競技会場
リハーサル大会 (全日本教員バスケットボール選手権大会)	成年男子 成年女子	平成25年8月11日(土)～14日(火)	武蔵野総合体育館メインアリーナ
本大会		平成25年10月4日(金)～8日(火)	

練習会場 武蔵野総合体育館サブアリーナ、市立第四中学校体育館
市立第一中学校体育館(本大会のみ)

共 催 市 立川市、小金井市、東村山市、西東京市

■国民体育大会ラグビーフットボール競技(正式競技)

大会名	種別	会期	競技会場
リハーサル大会 (関東大学ラグビーフットボール連盟 SEVEN A SIDE A ブロック大会)	成年男子 (7人制)	平成25年4月15日(日)	武蔵野陸上競技場
本大会		平成25年9月29日(日)～30日(月)	

練習会場 横河電機グラウンド(本大会のみ)、武蔵野軟式野球場(本大会のみ)

共 催 区 江戸川区(本大会のみ)

■国民体育大会ウォーキング(デモンストレーションとしてのスポーツ行事)

大会名	種別	会期	会場
本大会	都内在住者が参加	平成25年9月16日(月・祝)	武蔵野市内及び近隣

開催区市 板橋区、小平市、国分寺市、国立市、武蔵村山市、瑞穂町、奥多摩町

■全国障害者スポーツ大会グランドソフトボール

大会名	種別	会期	競技会場
リハーサル大会	身体障害 (視覚障害)	平成 25 年 5 月 26 日 (日)	都立武蔵野中央 公園スポーツ広 場
本大会		平成 25 年 10 月 12 日 (土) ~ 14 日 (月・祝)	

練習会場 都立武蔵野中央公園スポーツ広場、都立武蔵野北高校グラウンド

(2)武蔵野市開催方針 実施目標

① 市民との協働で開催する大会

喜びと感動を共有できる魅力あるスポーツ祭東京 2013 の開催に向けて、市及び関係機関・団体の緊密な連携のもと、青少年をはじめ多くの市民との協働により、その力と創意を結集して市民の総力による大会運営に万全を期す。

② 生涯スポーツ社会の実現を目指す大会

スポーツ祭東京 2013 開催を契機に、市民がスポーツへの関心を高めるとともに、生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境づくりや市民相互の交流を図り、生涯スポーツ社会の実現に努める。

③ 活力あるまちづくりを進める大会

市民総参加のもとに広く市民活動を展開することにより、地域の連帯感や郷土愛を醸成し、心豊かで、活気に満ちたまちづくりを推進する。

④ おもてなしの大会

全国各地から集う人々を「おもてなしの心」をもって、まちの美化など武蔵野市ならではの創意・工夫により温かく迎え、友情と交流の輪を広げるとともに武蔵野市の魅力を全国に紹介・発信する。

(3)武蔵野市実行委員会

本市において開催されるスポーツ祭東京 2013 の競技会の円滑な運営を期するため、競技会の開催及び準備のために必要な事業を行うために組織されました。

① 構成団体：市理事者、市議会議員、都議会議員、警察・消防関係、教育・学校関係、スポーツ関係、公園関係、産業・経済関係、保健・医療・福祉関係、宿泊関係、通信・報道関係、輸送・交通関係、各種関係団体、市職員

② 任期：スポーツ祭東京 2013 武蔵野市実行委員会の目的が達成されたときまで

③ 役員数（平成 25 年 9 月 28 日現在）：会長 1 名、副会長 13 名、常任委員 26 名、監事 2 名

④ 会議：総会、常任委員会、専門委員会

⑤ 委員数（平成 25 年 9 月 28 日現在）

実行委員会 83 名（市理事者 4 名、市議会議員 3 名、都議会議員 1 名、警察・消防関係 5 名、教育・学校関係 11 名、スポーツ関係 12 名、公園関係 1 名、産業・経済関係 4 名、保健・医療・福祉関係 6 名、宿泊関係 2 名、通信・報道関係 3 名、輸送・交通関係 9 名、各種関係団体 9 名、市職員 13 名）

常任委員会 40 名（上記実行委員会の委員で構成）

専門委員会 47 名（総務・企画専門委員会 16 名、競技・式典専門委員会 12 名、輸送・警備・消防専門委員会 12 名、宿泊・医事専門委員会 7 名）

(4)広報活動

市民の大会に対する関心を高め、スポーツ振興や障害者スポーツへの理解を図るために、積極的な広報活動を行いました。

① 啓発物品による広報

チラシ、大会観戦ガイドブック、観光マップ、うちわ、バンダナ、ボールペン、シャープペン、クリアファイル、ポケットティッシュ、トートバッグ等の配布。クールビズポロシャツの幹旋。

② 広報誌による広報

「市報」(9/1号市報特集号)、「教育むさしの」、「むさしの体協」、「季刊むさしの」、むさしのダイジェスト等に大会記事を掲載。

③ メディアによる広報

市ホームページに国体専用ページのバナーを掲載。むさしのFMの放送、JCN武蔵野三鷹の放送。ツイッターに大会情報を即時掲載。

④ イベントによる広報

＜開催競技に関するもの＞

○女性のためのラグビー体験教室&女子7人制試合

期日・場所 6月9日(日)武蔵野陸上競技場

イベント内容 東京都ラグビーフットボール協会主催のイベントに協賛。小学生から成人まで対象の指導と成人女子及び中学生の試合2試合を実施。

参加者 約33名 試合4チーム40名

○ミニバスケットボールクリニック

期日・場所 6月16日(日)武蔵野総合体育館メインアリーナ

イベント内容 東京都バスケットボール協会主催のイベントに協賛。市内ミニバスケットボールチームを対象としたバスケットボール教室と実業団バスケットボールリーグ戦の観戦。

参加者 125名 試合観戦 約350名

＜炬火イベント＞

期日・場所 7月14日(日)武蔵野市民公園

イベント内容 宣伝効果を高めるため、中央地区商店連合会の夏祭り「むチューふれあいまつり」の中で実施。市民が絵付けしたキャンドルから採火し、トーチを使ってリレーをしたあと採火台に点火。

参加者 絵付け80名 リレー7名 (まつり来場者 約10,000人)

＜その他＞

その他、市の行事、地域のイベント等で、啓発物品の配布、スポーツ祭東京2013PRブースの運営、ゆりーとダンスの実演、ゆりーと着ぐるみの活用などを実施。

⑤ 屋外広告による広報

＜横断幕の設置＞

グランドソフトボール競技リハーサル大会の開催に合わせ5月から都立武蔵野中央公園に、また、歓迎の意を表す横断幕をJR3駅構内及び競技会場(総合体育館、都立武蔵野中央公園)に設置。

＜アーケード入口幕の設置＞

8月からサンロード入口（吉祥寺駅側）に歓迎メッセージを書き込んだ特大幕を設置。

＜のぼり旗の設置＞

9月から市役所周辺、商店会、市内ホテル、ＪＲ３駅、コミュニティセンター、競技会場周辺に約400本を設置。

＜フラッグの設置＞

9月から商店会の街路灯に約300枚を設置。

＜路線バスの装飾＞

8月から市内を走る関東バスに正面幕を設置。

(5)市民活動

多くの市民に大会へ関わっていただき、スポーツを通じた地域の活性化に努めました。

① 大会運営ボランティア

活動内容 大会開催中に、競技会係員とともに休憩所でのドリンクのふるまい、来場者の受付・誘導、駐輪場の整理、弁当の配布回収、競技会場の美化、入退場者数のカウントなどを行う。

登録者数 77名

参加者数 延372名 ※大会期間中13日間

② 観光案内ボランティア

活動内容 吉祥寺駅・三鷹駅等に特設する観光案内所で、市内外の観光情報やスポーツ祭東京2013の情報を提供する観光案内ボランティア

登録者数 一般公募30名、亜細亜大学学生39名

参加者数 延86名（大会期間中13日間）

③ 花いっぱい運動

活動内容 市内の学校、コミュニティ協議会、保育園などで育成したプランターの花で競技会場、三鷹駅、武蔵境駅、選手の宿泊施設を装飾。水遣りはボランティア（フラワースタッフ）で対応。

参加施設 47施設

プランター数 694鉢（植付けは726鉢）

フラワースタッフ 22名及び1団体

④ クリーン運動

活動内容 ＪＲ３駅周辺及び競技会場2箇所周辺での市民参加の美化活動。9月8日（日）実施。

参加者数 216名

⑤ 武蔵野地粉うどんのふるまい

活動内容 ラグビーフットボール競技会及びバスケットボール協議会開催時に来場者にふるまい料理を提供。

参加者数 21名（ＮＰＯ法人武蔵野農業ふれあい村）

提供食数 2,100食（300食／日 7日間）

⑥ 市内学校等との連携

- 活動内容
- ・花の育成（花いっぱい運動）を呼びかけ市立小中学校 16 校が参加。
 - ・応援のぼり旗作成を市立小中学校全校に依頼、220 枚を競技会場に設置。
 - ・小中学校及び高校を対象に競技の観戦を募集、ラグビーフットボール、バスケットボール競技を 14 校、約 1,200 名の児童・生徒が観戦。
 - ・高校・大学に、各種ボランティアへの参加を依頼、観光案内ボランティアを中心に約 40 名が参加。
 - ・市内の保育園・幼稚園に依頼したマスコットキャラクター「ゆりーと」のぬりえ約 450 枚と、イベント等で集まった約 130 枚を総合体育館に掲示。

(6) グランドソフトボールリハーサル大会

障害者スポーツに対する理解・関心を高めるため、グランドソフトボール大会のリハーサル大会を実施しました。

- ①大会名 第 13 回全国障害者スポーツ大会リハーサル大会グランドソフトボール競技
- ②期 日 5 月 26 日（日）午前 9 時～午後 4 時 25 分
- ③会 場 都立武蔵野中央公園スポーツ広場
- ④チーム数 4 チーム
- ⑤試 合 数 4 試合
- ⑥大会関係者 302 名（選手・監督等 74 名、大会運営関係者 184 名、来賓 21 名、報道・視察 23 名）
- ⑦観 客 41 名 ※14 時時点）

(7) 第 68 回国民体育大会ウォーキング(デモンストレーションとしてのスポーツ行事)

※台風 18 号の接近により中止

(8) 第 68 回国民体育大会ラグビーフットボール競技会(正式競技)

- ①期 日 9 月 29 日（日）～30 日（月）
- ②会 場 武蔵野陸上競技場
- ③チーム数 16 チーム（予選プール 16 チーム、決勝トーナメント 8 チーム）
- ④試 合 数 35 試合（予選プール 24 試合、決勝トーナメント 11 試合）
*女子 7 人制 3 チームによるエキシビジョンマッチ 3 試合を別途実施
- ⑤大会関係者 1,148 名（選手・監督等 295 名、大会運営関係者 678 名、来賓 4 名、報道・視察 171 名）※ 2 日間延べ人数
- ⑥観 客 3,309 名 ※ 2 日間延べ人数

(9) 第 68 回国民体育大会バスケットボール競技会(正式競技)

- ①期 日 10 月 4 日（金）～ 8 日（火）
- ②会 場 武蔵野総合体育館、立川市泉市民体育館、小金井市総合体育館、東村山市民スポーツセンター、西東京市総合体育館

- ③チーム数 59 チーム（成年男子：12 チーム、成年女子 47 チーム）
- ④試合数 男子 11 試合、女子 46 試合（武蔵野市では男子 1 試合、女子 29 試合）
- ⑤大会関係者 2,792 名（選手・監督等 881 名、大会運営関係者 1,274 名、来賓 90 名、報道・視察 547 名）※5 日間延べ人数
- ⑥観客 6,775 名 ※5 日間延べ人数

(10)第 13 回全国障害者スポーツ大会グランドソフトボール競技会(正式競技)

- ①期 日 10 月 12 日（土）～14 日（月・祝）
- ②会 場 都立武蔵野中央公園スポーツ広場
- ③チーム数 7 チーム
- ④試合数 9 試合（交流試合 2 試合含む）
- ⑤大会関係者 1,310 名（選手・監督等 441 名、大会運営関係者 773 名、来賓 24 名、報道・視察 72 名）
- ⑥観客 910 名 ※各日の最多観客数試合の 3 日間の合計

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）						実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲		
【第3章】基本方針		スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		【B】進捗状況	【C】実績の評価と今後の取組	
施策の考え方				平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績			
基本施策								
事業名								
1 きっかけづくりの充実【広げる】								
(1) 生涯を通じてスポーツを楽しむ機会の創出								
①観るスポーツ・アスリートにふれる機会の拡充								
計画期間中に新たに取組んだ事業	1	(施設管理) スポーツ施設の管理運営	各種スポーツ大会の開催時に主催者と調整し、市民の観戦について配慮します。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 市民体育大会19種目 市民体育祭19種目 日本フットボールリーグ7試合 その他	市民向けの大会だけではなく、JFL横河武蔵野のホームグラウンドとして、アマチュア最高峰のチームの公式試合を開催。平成25年度には「スポーツ祭東京2013(国体・全国障害者スポーツ大会)」の開催地として、バスケットボール成人男子の決勝戦、および7人制ラグビー成年男子の決勝戦などを行い、多くの市民に観戦の機会を提供した。	◎	「スポーツ祭東京2013(国体・全国障害者スポーツ大会)」の開催を機に、市民に「観るスポーツ」の機会を拡充した。今後東京オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ日本開催に向け、障害者スポーツを含む各種大会等を武蔵野で開催し、より多くの市民に様々なスポーツを観戦する機会を提供していく。
	2	健康づくりの集い(アスリートによる講演会など)	広く市民の健康づくりの意識の向上を図るため。講演会等を開催します。	健康づくり支援センター	平成20年度2回実施	平成22年度より平成26年度まで、年1回の著名人による講演会を実施。	★	参加者が主体的に健康づくりに取り組むための情報提供を行い、効果的に健康づくり支援を受ける機会とし、参加者アンケート結果等により一定の成果を得た。平成27年度より、著名人に要する費用を他事業に有効に使用するため事業を廃止した。
	1	トップアスリートやスポーツ選手との交流	トップアスリートや市にゆかりのあるスポーツ選手などとふれあう機会の充実を図ります。	生涯学習スポーツ課		平成24年度にプロバスケットボールチーム「サンレーヴス」が東京に誕生し、そのホーム会場の一つとしてチームを支援している。市内の小中学生との交流体験などの事業を積極的に展開している。	◎	平成24年度以降定期的に、アマチュアとは違った魅力のあるプロの試合を開催し、市民にスポーツに親しむ機会を増やすことができた。今後もラグビーワールドカップ日本開催や東京オリンピック・パラリンピックの開催をきっかけに更なる充実をはかる。
②スポーツのある風景づくり								
	1	(施設管理) スポーツ施設の管理運営	生活通路やランニングコースに面している施設でスポーツをする場面を見て、興味をもってもらえるよう工夫します。	武蔵野生涯学習振興事業団	総合体育館・陸上競技場・温水プール・庭球場・軟式野球場・ストリートスポーツ広場・中央公園スポーツ広場等の整備。	平成21年度にフットサル、フライングディスク、グランドゴルフなど、様々なスポーツができる緑町スポーツ広場を新たに整備した。	◎	今後も市民に利用しやすい施設をめざし、計画的な改修等整備をすすめていく。
	2	さあ始めようウォーキング	正しい歩き方や靴の履き方のレクチャーと4km強のウォーキングを行います。	健康づくり支援センター	平成20年度年10回実施。(7、8月をのぞく毎月実施)	平成21年度より平成26年度まで、年10回程度継続実施	○	参加者数及びアンケート結果等から、これまではウォーキングのきっかけづくりとして一定の成果を上げたと言える。平成27年度より、ウォーキング人口が増えウォーキングへの意識が高まってきた時代の変化に合わせ、仲間づくりやターゲット・テーマを明確にした企画による実施に変更。60代以上を対象とした初級・中級クラス、20～50代の女性を対象とした強度の高い講座等を、複数回のコースにより実施。

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）								実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲		
【第3章】基本方針				スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		【B】進捗状況	【C】実績の評価と今後の取組	
施策の考え方		平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績							
基本施策										
事業名										
		計画期間中に新たに取組んだ事業	3	だんだん活力アップ体操 キャラバン隊	市内各所（イベント含む）でだんだん活力アップ体操の紹介を行います。	健康づくり支援センター	平成20年度年10回実施。	平成21年度からは、市内団体等からの依頼により実施。また、高齢者を対象とした各種講座等において実施。	○	市内イベント及び各種講座で広く実施した結果、現在では体操を収録したDVDにより毎朝体操を行っている市内施設も数件ある。今後も更に普及していくため、健康づくり推進員により地域に周知を行うとともに実施を継続していく。
			4	親子食育ウォーキング	正しい姿勢や歩き方の指導を受けてウォーキングを行います。途中農家に立ち寄り、農家の方から話を聞いたり、コンビニエンスストアで選んだおやつをもとに、食育講座を実施します。また、クールダウンのストレッチも行います。	健康づくり支援センター	年3回 定員10組20名（平成20年度参加者延べ61名）	平成26年度までは募集型と出前型で実施継続。	○	親子体験プログラムとして非常に人気が高い啓発講座である。事業のノウハウが確立したため、平成27年度より出前型のみとする。 健康づくり推進員企画により出前型の実施のサポートもあわせて行う。
			3	観光推進計画との連携	『武蔵野市観光推進計画』（平成19年8月策定）と連携し、来街者呼び交を生む有効な機会として、様々なスポーツ関係団体等との交流と協力を得ながら、「観光の一翼を担うスポーツ」を育成します。	生活経済課		まち歩きツアーの実施（平成25年度より、月1回程度）。	◎	毎回30名程度の参加者を募集し、ほぼ満員でのツアーを実施している。まち歩きを通じた健康増進と、観光の推進を図るため、今後も継続していく。
		③家族・親子で楽しめるスポーツの促進								
			1	ファミリースポーツフェア	幼児から高齢者まで、ニュースポーツやレクリエーションスポーツを、気軽に楽しむことのできる機会として実施します。	生涯学習スポーツ課	年1回 4月29日（祝・昭和の日） 総合体育館・陸上競技場 自由参加型イベント 400～600人参加	毎年度開催するファミリースポーツフェアの中で、平成25年度は国体開催に向けたラグビーイベントの実施、平成26年度は元NHK体操のお兄さんによる親子体操の実施など毎年工夫した内容と、積極的な広報活動により参加者が大幅に増加した。	◎	スポーツ推進委員が家族・親子で楽しめるニュースポーツの普及に努め、その結果参加者数は6年間で3倍近く増加し、多くの家族・親子にスポーツを楽しむ機会を提供した。
			2	市民スポーツデー	市立小学校の校庭、体育館にて、月1回施設開放を行い、体力向上とスポーツ振興並びに家庭・学校・地域の一体化を図ります。	生涯学習スポーツ課	毎月第3日曜日午後（7月、8月、3月除く） 学校校庭、体育館の開放	毎年度継続実施。平成25年度に実施回数を見直し、小学校ごとに年5回程度の開催とした。回数は減ったが、特別イベントの開催など内容を充実させ、参加者数が増加した。	◎	スポーツ推進委員の協力も得て、スポーツイベントを開催し、参加者数は増加している。また市民への周知方法も、ポスター、フェイスブック、ツイッターなど増やしたため、小学校区域を越え、また高齢者の参加も増加した。
			3	家族ふれあい長期自然体験	都会と違いゆったりした時間の流れる豊かな自然の中で、親子・家族で様々な体験を共有します。事業期間を長めに設定し、家族で海と山の両方を体験します。	児童青少年課	平成15年度より実施 年1回 夏休中 4泊5日 鳥取県・岩手県にて民泊・自然体験等	毎年度継続実施。文化や自然に触れる体験やホストファミリーとの交流を行った。平成25年度から遠野市家族ふれあい自然体験事業が生涯学習スポーツ課から移管されたため、以後鳥取県家族ふれあい長期自然体験と隔年で実施している。	◎	友好都市の豊かな自然の中で、日常生活では体験できない活動を通して、親子のふれあい、絆を深めることができた。今後も体験の機会を提供していく。
						生涯学習スポーツ課	平成24年度までは生涯学習スポーツ課で実施。自然豊かな岩手県遠野市で多くの家族が自然を体験した。平成25年度からは児童青少年課が実施。	★	平成24年度までは生涯学習スポーツ課で実施し、平成25年度からは児童青少年課で実施している。自然体験だけではなく日々の忙しさから離れ、家族のつながりを確認する機会も提供した。	

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）							実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲			
【第3章】基本方針					スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		【B】進捗状況	【C】実績の評価と今後の取組
施策の考え方							平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績		
基本施策										
事業名										
			4	二俣尾武蔵野市民の森事業	二俣尾・武蔵野市民の森「自然体験館」において、市内ではできない自然体験を実施することで、森林を含む自然環境に対する意識の向上や理解を深め、事業参加を通して親子の絆を深めることを企図します。	緑のまち推進課	森の市民講座 21年度 年4回 参加人数 96名 22年度 年4回 参加人数 75名 23年度 年4回 参加人数 69名 24年度 年4回 参加人数 62名 25年度 年5回 参加人数 96名 26年度 年5回 参加人数 66名	◎	今後も実施していく。	
						児童青少年課	森の森林講座、自然体験教室、森林体験教室（土曜学校）等 各所管課にて年複数回実施	◎	多摩地域の身近な自然での体験を通して、家族の絆を深めるとともに、自然環境に対する意識の向上を図ることができた。毎回定員を超える応募がある参加需要の高い事業となっている。今後も自然体験の機会を提供していく。	
						生涯学習スポーツ課	土曜学校として実施している「森林体験教室」は多くの子ども達が参加している。平成23年度からは武蔵野生涯学習振興事業団の指定管理事業として実施している。	◎	初級(小学生低学年)、中級(小学生高学年と中学生)のクラスがあるが、高学年以上になると参加者が減るのが課題である。今後は他課の事業とも合わせて検討していく。	
			5	スポーツ教室	未就学児と保護者を対象に、5～10回程度のスポーツ教室を実施します。 親子体操教室、親子水泳教室等	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】主に親子を対象にしたスポーツ教室 教室数 5教室 応募数 206組 参加数 152組	◎	2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを踏まえ、今後も多彩なプログラムを展開していく。	
			6	体験教室、イベント	未就学児から小学生と保護者を対象に、各種スポーツを体験します。 サンタさんと親子運動会、サッカー体験教室等	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】主に親子を対象にしたイベント 事業数 2事業 応募数 278組 参加数 266組	◎	2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップや、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを踏まえ、今後も多彩なプログラムを展開していく。	
7	野外活動事業	小学生と保護者を対象に、自然観察、キャンプを体験します。 親子野あそびクラブ、ファミリーキャンプ、はじめてのオートキャンプ等	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】主に親子を対象にした野外活動事業 事業数 16事業 応募数 1911人 参加数 680人	◎	2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップや、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを踏まえ、今後も多彩なプログラムを展開していく。				
8	親子棚田体験事業	友好都市市長岡市小国町の協力の下、都会を離れ家族での1泊2日の農業体験を通じ、親子の絆を深めます。また、棚田農業が自然環境に果たす役割を学ぶとともに、農業の楽しさ、大切さを体験します。	児童青少年課	平成14度より実施年2回 春（田植え） ・ 秋（稲刈り） 家族単位で参加 定員：各回35名	◎	家族での農業体験を通じ、親子の絆を深めるとともに、自然環境の役割、農業の楽しさ・大切さを学ぶことができた。今後も体験の機会を提供していく。				

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）							実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲			
【第3章】基本方針					スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		【B】進捗状況	【C】実績の評価と今後の取組
施策の考え方							平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績		
基本施策										
事業名										
	9	親子ミニミニジャンボリー	富士高原ファミリーロッジを利用し、1泊2日の野外活動を通じて、就学前の幼児とその親、特に父親との親子ふれあいの機会を提供します。	子ども家庭課（子ども政策課記載）	・年2回実施 ・夏期実施 ・平成20年度応募者39組116名 当選者30組87名（2回分合計）	平成22年度で事業終了し、平成23年度より児童青少年課の類似事業に統合した。	★（22）	—		
	10	0123吉祥寺、はらっぱ	0～3歳の子どもとその家族がいつでも自由に来館し、楽しく遊び、子育てについて学び合う施設です。元保育士・幼稚園教諭など、経験豊富なスタッフがいて相談などができます。また子育て中の親への様々な支援も行います。	子ども政策課	・0123吉祥寺年間施設利用者数（子ども）15,619人（平成19年度実績） ・0123はらっぱ年間施設利用者数（子ども）26,741人（平成19年度実績）	0123施設では通常のひろば事業・つどい事業の一環として、毎日開催する「わいわいタイム」での手遊びや体操、月数回実施する「年齢別ひろば」でのリズム遊び、ボール遊び等を継続して実施してきた。年間施設利用者数（子ども）は、0123吉祥寺が18,496人、0123はらっぱが28,882人（平成26年度実績）と、年々増加傾向にある。	◎	子育て家庭が自由に来所でき、楽しく遊べる施設として、利用者アンケートでは非常に高い満足度を得ている。今後は多様化する子育て世帯のニーズを捉えた事業展開を検討しながら、地域と協働・連携して事業を実施していく。		
	11	リズムでDANDAN！forキッズ	5歳～8歳を対象にした3分半のリズム体操を行います。	健康づくり支援センター	平成20年度保育園3園、あそべえ2ヶ所で実施	継続実施中。平成26年度は市内イベント・保育園等22か所にてデモンストレーションを実施。	◎	市内イベント等で広く実施した結果、現在では毎年利用の保育園等も数件ある。今後も更に普及していくため、健康づくり推進員により地域に周知を行うとともに実施を継続していく。コラボ企画及び学生ボランティアによるスタッフ等、更に楽しく啓発に結びつく企画を検討実施予定。		
	12	サマーチャレンジ日本一周家族でメタボ予防講座	親子で生活習慣を見直すきっかけに、運動と食事を意識した1ヶ月を送ります。	健康づくり支援センター	平成20年度は7月21日～8月17日で実施。12組24名参加。	平成22年度まで実施継続	★	—		
	13	親子食育ウォーキング（再掲）	正しい姿勢や歩き方の指導を受けてウォーキングを行います。途中農家に立ち寄り、農家の方から話を聞いたり、コンビニエンスストアで選んだおやつをもとに、食育講座を実施します。また、クールダウンのストレッチも行います。	健康づくり支援センター	年3回 定員10組20名（平成20年度参加者延べ61名）	平成26年度までは募集型と出前型で実施継続	○	親子体験プログラムとして非常に人気が高い啓発講座である。事業のノウハウが確立したため、平成27年度より出前型のみとする。健康づくり推進員企画により出前型の実施のサポートもあわせて行う。		
④誰もが楽しめる機会の充実（★1：重点施策）										
	1	市民スポーツフェスティバル	日頃スポーツをする機会の少ない市民を対象に簡単なレクリエーションスポーツを通じてスポーツの習慣化を図るとともにレクリエーションスポーツの振興を図ります。	体育協会 生涯学習スポーツ課	年1回10月体育の日600～1,000名参加 自由参加型イベント	毎年度継続実施。36競技団体の協力を得て、毎年多くの参加者がある。平成25年度からはストリート広場を会場としたスケートボード大会も同時に開催している。平成26年度の体育の日には1964年東京オリンピックから50周年を記念した聖火イベントを実施。	◎	◎	体育協会、武蔵野生涯学習振興事業団との共催により実施。体育施設の1日無料開放も実施しており、子どもから高齢者まで多くの方が参加し、スポーツに親しむ機会を提供している。	

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）							実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲		
【第3章】基本方針				スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		【B】進捗状況	【C】実績の評価と今後の取組
施策の考え方						平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績		
基本施策									
事業名									
	2	ファミリースポーツフェア（再掲）	幼児から高齢者まで、ニュースポーツやレクリエーションスポーツを、気軽に楽しむことのできる機会として実施します。	生涯学習スポーツ課	年1回 4月29日（祝・昭和の日） 総合体育館・陸上競技場 自由参加型イベント 400～600人参加	毎年度開催するファミリースポーツフェアの中で、平成25年度は国体開催に向けたラグビーイベントの実施、平成26年度は元NHK体操のお兄さんによる親子体操の実施など毎年工夫した内容と、積極的な広報活動により参加者が大幅に増加した。	◎	スポーツ推進委員が家族・親子で楽しめるニュースポーツの普及に努め、その結果参加者数は6年間で3倍近く増加し、多くの家族・親子にスポーツを楽しむ機会を提供した。	
	3	市民スポーツデー（再掲）	市立小学校の校庭、体育館にて、月1回施設開放を行い、体力向上とスポーツ振興並びに家庭・学校・地域の一体化を図ります。	生涯学習スポーツ課	毎月第3日曜日午後（7月、8月、3月除く） 学校校庭、体育館の開放	毎年度継続実施。平成25年度に実施回数を見直し、小学校ごとに年5回程度の開催とした。回数は減ったが、特別イベントの開催など内容を充実させ、参加者数が増加した。	◎	スポーツ推進委員の協力も得て、スポーツイベントを開催し、参加者数は増加している。また市民への周知方法も、ポスター、フェイスブック、ツイッターなど増やしたため、小学校区域を越え、また高齢者の参加も増加した。	
	4	スポーツ教室の充実	5～10回程度の初心者対象の「スポーツ教室」や、1回ごとに受付の「ワンダーレッスン」を実施します。 水泳、弓道、アーチェリー、ソーシャルダンス、テニス、太極拳、エアロビクス、ヨガ、卓球 等	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 スポーツ教室 教室数 169教室 定員数 5,197人 応募者数 7,021人 参加者数 4,933人 延参加者数 29,507人 ワンダーレッスン 教室数 10教室 教室回数 756回 延参加者数 34,056人	初心者対象の水泳教室等を開催した。またその教室を卒業し自主的にサークル活動できるように支援を行った。予約なしで気軽に参加できるワンダーレッスンは、ピラティス、ボクササイズなど新プログラムも実施し、多くの市民が参加した。また、障害者向けに、ボールエクササイズやノルディックウォーキングなどの教室も実施した。	◎	ジュニア用のワンダーレッスンとして、屋外でのサッカー教室や障害者スポーツ教室のジュニア水泳等も実施した。今後も幅広い年齢層で誰もが参加できるプログラムを検討していく。	
	5	野外活動事業の充実	用具の貸し出しや貸切バスによる移動などで、気軽に参加できる事業を実施します。 登山、ハイキング、キャンプ、自然観察、アウトドアスポーツ等。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 野外活動事業 事業数 58事業 定員数 2,308人 応募者数 4,034人 参加人数 3,541人	レベル別に実施する登山教室は人気があり、多くの市民が参加した。また登山スクールや初心者登山教室も実施し安全な登山のできる技術を学ぶ機会を提供した。キャンプ用品の貸出しなどPRし、アウトドアを気軽に体験できる機会を提供した。	◎	体育施設内での展示や、市の主催する防災イベントなどへの参加など、今後も新たなPR方法とPR活動の場を検討していく。	
	6	トレーニング室の運営	総合体育館の開館時間中は、いつでも簡単な説明の後、トレーニングができるように運営します。必要に応じて指導を行います。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 開場日数 343日 初回登録者数 2,519人 利用者数 84,396人	毎日多くの方が利用している。ひとりでも運動を継続できる施設となっている。スポーツフェスティバルなどのイベント開催時には、無料開放するなどし、体験するきっかけを提供し、更に利用者を増やした。	◎	運動機器の入れ替えなど、環境整備を進めながら、今後も新規利用者を増やすため広報していく。	
	7	（施設管理） スポーツ施設の 管理・運営	施設の適切な維持管理をしつつ施設のバリアフリー化に努めます。 視覚障害者用卓球台の設置、更衣室・トイレの整備	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 プラチナカード利用者（障害者等の個人利用） 総合体育館 2,692人 プール 3,254人	料金の減免などもあり、多くの障害者の方の利用があった。特に利用の多いプールには、専用の更衣室に着替え介助のためのベッドを設置。また異性介護用に新たな更衣室も整備した。	◎	東京オリンピック・パラリンピック開催も踏まえ、障害者スポーツを振興していくためにも、更なる整備としてトイレなどの改修を検討していく。	

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）							実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲		
【第3章】基本方針				スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		【B】進捗状況	【C】実績の評価と今後の取組
施策の考え方		平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績						
基本施策									
		事業名							
		8	女性向けプログラムの開発	女子中高生、育児期間中の女性を対象とし、美容の観点から女性が関心をもつことができるスポーツのプログラムづくりを進めます。スポーツのあとの食事も含めたプログラムについても検討します。 水中シェイプアップ体操教室、エレガンスストレッチ教室、脂肪燃焼ウォーキング教室、一時保育事業 等	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】主に女性を対象とした教室 教室数 6教室 応募数 359人 参加数 211人 一時保育事業 開催数 124日 利用者数 631人	子育て支援教室を総合体育館だけではなく、地域のコミセンやプレイス等で実施。より参加しやすい環境を整備し、多くの方が参加した。また新規に産後ヨガなど乳児と一緒に参加できる教室なども実施した。	◎	需要が多いこの事業は、応募者が多く抽選となっているため今後回数を増やすなど、検討していく。
		9	多摩障害者スポーツセンター等主催事業の啓発・普及協力	多摩障害者スポーツセンター利用希望者に、利用方法やセンター主催事業等の紹介を行います	障害者福祉課	問合せに対する窓口・電話での対応、ちらしの配布等	スポーツ等に関心のある方に対して、障害のある方々の健康増進と社会参加を促進するための障害者専用のスポーツ施設である、多摩障害者スポーツセンターを紹介した。また、同施設が実施するイベントについて、ちらしの配布、ポスターの掲示等による紹介を行った。	◎	スポーツに関心のある市民に適切な情報提供ができた。今後、東京オリンピック・パラリンピックの開催等により、一層スポーツを楽しもうという気運の高まりが予測されることから、当課発行の情報紙での掲載など、広報の充実を図る。
(2) ライフステージに応じたスポーツライフの形成									
①子どもが親しめるプログラム等の充実（★2：重点施策）									
		1	土曜学校	学校の授業ではできないスポーツ活動を通して心と身体の健康づくりと子どもどうしのふれあいを図ります。	生涯学習スポーツ課	小学校体育館 年2期制5～10回 定員制	土曜学校としてスポーツ教室を開催している。数年ごとに種目を見直し、様々なスポーツするきっかけづくりの役目を果たしている。	◎	人気のミニバスケットボールやドッチビー、スポーツチャンバラなどのニュースポーツを実施。運動の苦手な子どもでも楽しめるプログラムを用意し、スポーツに親しむ機会を提供することができた。
		2	市民スポーツデー（再掲）	市立小学校の校庭、体育館にて、月1回施設開放を行い、体力向上とスポーツ振興並びに家庭・学校・地域の一体化を図ります。	生涯学習スポーツ課	毎月第3日曜日午後（7月、8月、3月除く） 学校校庭、体育館の開放	毎年度継続実施。平成25年度に実施回数を見直し、小学校ごとに年5回程度の開催とした。回数は減ったが、特別イベントの開催など内容を充実させ、参加者数が増加した。	◎	スポーツ推進委員の協力も得て、スポーツイベントを開催し、参加者数は増加している。また市民への周知方法も、ポスター、フェイスブック、ツイッターなど増やしたため、小学校区域を越え、また高齢者の参加も増加した。
		3	学校（部活動）との連携	市内の公・私立中学校の生徒を対象に、各種目の競技に対する正しい知識と基礎的な技術を習得し、あわせて体育に対する関心を深め、健全な心身を鍛え、他校（同じ競技をする生徒）との親睦を図ることで、学校体育の向上を図ることを目的として実施します。 また、市立中学校で実施する部活動を指導・支援をするための人材を確保し、活用することで、知識、技能などの提供を得て学校教育における部活動の拡充を図ります。	指導課	年1回、夏から秋にかけて市内中学校総合体育大会を開催 市立中学校で実施する部活動の指導・支援をするための指導員について、学校からの依頼に応じて、市教育委員会にて費用を負担	中学校体育連盟主催の各種目大会への参加や学校間の交流ゲーム、合同練習のほか、私立中学校7校を含む中学校13校による市内中学校総合体育大会及び市内中学校陸上競技大会を実施した。また、部活動の充実を図るため各中学校で外部指導員を使用しており平成26年度は51名の外部指導員が指導を行った。	◎	各種目の競技に対する正しい知識及び基礎的な技術の習得や、運動に対する意欲の向上、健全な心身の育成、参加生徒の親睦、学校体育の質の向上等を図ることができた。今後も一層の拡充を図る。
					生涯学習スポーツ課	小学校の授業へスポーツ推進委員の派遣によりニュースポーツの指導を実施した。また市内のラグビーチームによる小学校巡回ラグビー教室を実施した。	◎	今後も学校との連携の在り方を検討していく。	

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）						実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲				
【第3章】基本方針				スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		【B】進捗状況	【C】実績の評価と今後の取組	
施策の考え方						平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績			
基本施策										
事業名										
			4	地域におけるスポーツ団体及び青少年関係団体の活動	主に各小・中学校区域において様々なスポーツ団体及び青少年関係団体が活動しています。	児童青少年課	（記載なし）	毎年度継続実施。青少年団体に対するバス借上事業は平成24年度から市負担額の上限を減額した。講師謝礼補助は年1回2万円限度（総経費の半額まで）に実施。青少年団体指導者の保険加入も実施している。	◎	青少年関係団体の育成及び援助に資することができた。今後も育成・支援を継続していく。
			生涯学習スポーツ課	市の体育協会に加盟する団体については体育協会を通じ、合宿や遠征試合などに対して借上バスの補助や、指導者講習会等実施している。また様々な競技のジュニア向け教室を開催し、多くの子どもたちが参加している。	◎			市の体育協会に加盟する37のスポーツ団体により、今後も各種競技の教室や大会等の開催のための支援を継続していく。		
				5	スポーツ教室	幼児、小学生を対象に、5～10回程度のスポーツ教室を実施します。 幼児対象の体操・器械運動・水泳教室、小学生対象の柔道・剣道・サッカー・テニス・スケートボード・インラインスケート・チアダンス等	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 主に親子・幼児・小中学生対象教室 教室数 93教室 応募数 4,057人 参加数 2,664人	器械体操、HIPHOPダンス、幼児や小学生を対象としたプログラムを多数実施。夏休み、春休みなど短期教室も開催し毎回多くの応募がある。平成27年度より障害者向けの水泳教室も開催した。	◎
			6	野外活動センター	スポーツ振興事業団の中で野外活動の振興を図るための事業の企画・実施・情報提供を行います。 登山、ハイキング、キャンプ、自然観察、アウトドアスポーツ等。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 主に親子・小中学生対象事業 事業数 22事業 応募数 2,303人 参加数 957人	キャンプ用品の貸出しなどPRし、アウトドアを気軽に体験できる機会を提供した。また野外活動センターではアウトドアの資料を提供するため、自由に閲覧でき、多くの方が利用した。	◎	事業の様子をフェイスブックで発信するなど、多くの方が利用できるように、今後も情報の発信方法を検討していく。
			7	ランニングフェスティバル	子どもたちが走ることの楽しさやすばらしさを体験すること、さらには体力の向上を図り、健全な精神を養うことを目的として実施します。	指導課	年1回、平成20年度は、3月に実施。子どもたちが楽しく走ることができる内容で開催。	小学校5.6年を対象に実施してきたが、類似事業との重複や運営上の課題等により平成25年度より中止した。	○	学校教育と生涯学習事業と連携し陸上競技協会との協力体制の円滑化による運営体制の充実を図るため、市民体育大会及び市民体育祭への児童の参加を奨励していく。
			8	地域子ども館あそべえ	子どもたちの放課後対策充実施策の一つとして、保護者を含めた地域社会の構成員が一体となって子どもを育てるという考えに基づき、市立小学校全12校で「教室開放」「校庭開放」「図書室開放」を実施します。早朝や放課後・土曜日の子どもたちの居場所づくりや異年齢児童の交流を目的とします。	児童青少年課	全12館年間延人数 教室開放 115,968人 図書室開放 12,890人 校庭開放 308,310人 （平成19年度実績）	毎年度継続実施。小学生が安全かつ健全に放課後等を過ごし、仲間づくりや異年齢交流を行うことができるように、学校施設を利用した地域の居場所・遊びを提供し、小学生の健全育成を図った。各種イベントの実施や小学校の児童数の増加などに伴い、毎年度参加児童数が増加している。	◎	地域ボランティアとの連携により、小学生の安全確保及び健全育成に資することができた。今後も学童クラブ事業との連携を進め、子どもの視点に立ったより充実した放課後の居場所・遊びを提供していく。
9	武蔵野野菜たんけん隊	市内の農業生産者宅を訪問し、武蔵野市の地場野菜を見学・収穫します。	子ども家庭課（子ども政策課記載）	年2回実施（夏・冬） 夏：応募者132組351名 当選者16組44名 （平成20年度実績） 冬：応募者23組60名 当選者9組24名 （平成19年度実績）	平成23年度で事業終了し、平成24年度以降は事業形態を変更し、食育事業を実施している。	★（23）	—			

実施・実施後継続中／◎
事業の一部を実施・実施後継続中／○
完了(実施後継続を伴わないもの)／★
検討・研究中／■
未着手／▲

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）						実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲			
【第3章】基本方針				スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		【B】進捗状況	【C】実績の評価と今後の取組
施策の考え方						平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績		
基本施策									
事業名									
	10	関前公園トンボ池のかい掘り	ヘドロの除去や水草を整理します。本来「トンボ池」に生息しない生物を除去し、子どもたちが身近な自然と触れ合える体験学習を行います。	緑のまち推進課	平成19年度 7月28日 子ども86名、大人30名 平成18年度 7月30日 子ども110名、大人60名 平成17年度7月23日 子ども100名、大人50名	平成21年度 7月21日 135名 平成22年度 7月26日 131名 平成23年度 7月24日 104名 平成24年度 7月29日 140名 平成25年度 7月20日 140名 平成26年度 7月28日 140名	◎	身近な水生動物に触れあうことのできる体験学習の場として事業参加者から高い評価を得ている。ここ数年で安定して多くの親子連れの参加がみられる。今後の事業展開としてトンボ池の更なる環境改善と関係部署と連携をしながら、事業を進めていく。	
	11	むさしのジャンボリー	豊かな自然環境の中での共同生活を通して、子どもたちの「自立心」や「創造性」、「自然への興味と理解」を育むことと、地域の中学・高校生を地域でのボランティア活動に取り込み、地域で青少年を育てていく環境作りを目的に、市と青少年問題協議会地区委員会の共催で実施します	児童青少年課	平成20年度で第37回目を実施 年1回夏休み中実施 市と青少年問題協議会地区委員会（12地区）で共催 自然体験・野外活動 2泊3日 参加人数については60頁を参照。	毎年度継続実施。2泊3日でハイキング、野外調理、キャンプファイヤーなど各地区で企画したプログラムを行った。平成21年度から24年度は11クール、25年度・26年度は12クールで開催した。平成23年度には40周年記念事業として、記念式典、記念展示、DVDとパンフレットの作成等を行った。	◎	児童の健全育成に資するとともに、将来の地域の担い手を育てる環境作りを行うことができた。今後も青少年問題協議会地区委員会と協力してより充実した自然体験活動の機会を提供していく。	
	12	リズムでDANDAN！forキッズ（再掲）	5歳～8歳を対象にした3分半のリズム体操を行います。	健康づくり支援センター	平成20年度保育園3園、あそべえ2ヶ所で実施	継続実施中。平成26年度は市内イベント・保育園等22か所にてデモンストレーションを実施。	◎	市内イベント等で広く実施した結果、現在では毎年利用の保育園等も数件ある。今後も更に普及していくため、健康づくり推進員により地域に周知を行うとともに実施を継続していく。 コラボ企画及び学生ボランティアによるスタッフ等、更に楽しく啓発に結びつく企画を検討実施予定。	
	13	親子食育ウォーキング（再掲）	正しい姿勢や歩き方の指導を受けてウォーキングを行います。途中農家に立ち寄り、農家の方から話を聞いたり、コンビニエンスストアで選んだおやつをもとに、食育講座を実施します。また、クールダウンのストレッチも行います。	健康づくり支援センター	年3回 定員10組20名（平成20年度参加者延べ61名）	平成26年度までは募集型と出前型で実施継続	○	親子体験プログラムとして非常に人気が高い啓発講座である。事業のノウハウが確立したため、平成27年度より出前型のみとする。 健康づくり推進員企画により出前型の実施のサポートもあわせて行う。	
②若者から社会人向けのプログラム等の拡充									
	1	子育てママのスポーツ教室	日頃子育てに追われスポーツを行う機会の少ない母親を対象に気軽にできるスポーツを楽しみながら、健康増進と参加者相互の交流の場の提供を行います。	生涯学習スポーツ課	年3期 3B体操、フィットネスジャズダンス、ヨガ 20～30名定員 保育者 コミュニティセンターにて実施	ピラティスや脂肪燃焼エクササイズなど、人気のプログラムを実施し、毎年定員を超える応募がある。	◎	スポーツをする機会の少ない子育て世代に、地域でスポーツの場を提供している。平成23年度から指定管理者に委託するに伴い「子育て支援スポーツ教室」に名称変更した。	

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）						実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲			
【第3章】基本方針				スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		【B】進捗状況	【C】実績の評価と今後の取組
施策の考え方						平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績		
基本施策									
事業名									
	2	市民スポーツフェスティバル（再掲）	日頃スポーツをする機会の少ない市民を対象に簡単なレクリエーションスポーツを通じてスポーツの習慣化を図るとともにレクリエーションスポーツの振興を図ります。	体育協会 生涯学習スポーツ課	年1回10月体育の日600～1,000名参加 自由参加型イベント	毎年度継続実施。36競技団体の協力を得て、毎年多くの参加者がある。平成25年度からはストリート広場を会場としたスケートボード大会も同時に開催している。平成26年度の体育の日は1964年東京オリンピックから50周年を記念した聖火イベントを実施。	◎	体育協会、武蔵野生涯学習振興事業団との共催により実施。体育施設の1日無料開放も実施しており、子どもから高齢者まで多くの方が参加し、スポーツに親しむ機会を提供している。	
	3	ファミリースポーツフェア（再掲）	幼児から高齢者まで、ニュースポーツやレクリエーションスポーツを、気軽に楽しむことのできる機会として実施します。	生涯学習スポーツ課	年1回 4月29日（祝・昭和の日） 総合体育館・陸上競技場 自由参加型イベント 400～600人参加	毎年度開催するファミリースポーツフェアの中で、平成25年度は国体開催に向けたラグビーイベントの実施、平成26年度は元NHK体操のお兄さんによる親子体操の実施など毎年工夫した内容と、積極的な広報活動により参加者が大幅に増加した。	◎	スポーツ推進委員が家族・親子で楽しめるニュースポーツの普及に努め、その結果参加者数は6年間で3倍近く増加し、多くの家族・親子にスポーツを楽しむ機会を提供した。	
	4	大人の体力測定	トレーニング室に併設の体力測定室を有効に活用します。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 開場日数 343日 利用者数 468人	トレーニング室を利用する初心者等向けに、体力測定をして、個人に合わせた有効なトレーニング方法を指導している。	◎	トレーニング室の新規利用者は多く、今後も有効に活用されるよう整備を継続していく。	
	5	一時保育事業	子育て中の保護者のスポーツ施設利用（教室への参加を含む）を促進します。 未就学児の一時保育等	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 開催日数 124日 利用者数 631人	教室だけではなく、トレーニングルームやプールの施設利用者について一時保育を実施している。スポーツ実施率の低い子育て世代に、スポーツをする機会を提供している。	◎	更なる利用者の拡充を図るため、補助金等の活用により本人負担の軽減等を検討していく。	
	6	アウトドアスポーツ事業	はじめてのサーフィンやクライミング、スキndaイビングなど若者にも人気のあるアウトドアスポーツの事業を進めています。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 事業数 6事業 応募者数 346人 参加者数 188人	ワカサギ釣りやスキndaイビングなど多彩のプログラムを実施した。また、オリンピック競技として人気のあるカーリングなども実施し、東京では体験できない貴重な機会を提供した。	◎	アウトドアスポーツは人気があり、近くで気軽に体験できる場の提供は重要である。今後も様々なプログラムを検討していく。	
	7	子ども自然体験指導者講習会	ジャンボリーなどで利用する自然の村周辺の動植物や天体、気象等の知識を持った指導者を育成するため、自然体験講習会を開催します。	児童青少年課	年3回講習会実施 平成20年度講習会出席者数 第1回28名、第2回22名 第3回14名	平成23年度から隔年開催に変更して、継続実施している。指導者基本講習、天文・気象講習、実地講習では野外調理、キャンプファイヤー、応急手当の実習を行った。	◎	地域での指導者の育成に資することができた。指導者の不足という課題も生じているため、今後も講習の機会を提供していく。	
	8	健康増進（からだほぐし体操教室）	リズム体操、ストレッチ等を組み合わせた運動実技を行います。	健康づくり支援センター	原則火・水・木実施。 平成20年度年122回実施。定員各35名。	名称を「健康体操教室」に変更し、自由来所制で継続実施中。 20歳以上の市民を対象に月・火・水・金曜日に実施。運動に慣れていない方でも無理なく行うことのできる簡単で効果のあるフィットネスプログラム。曜日ごとに強度の異なる運動を実施。	◎	参加者が継続的に多い人気講座であり、運動に慣れていない方のきっかけづくりとして成果を上げていると考える。平成26年度までの参加者は圧倒的に高齢者が多かったため、平成27年度より、水曜日を65歳以上の方向けとし、筋力向上プログラム・ストレッチ・脳トレ・転倒予防などの介護予防事業として実施。また、水曜日以外のクラスも、時間・内容をリニューアルし、若い世代に利用してもらえるよう見直しを行った。	

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）						実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲			
【第3章】基本方針				スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		【B】進捗状況	【C】実績の評価と今後の取組
施策の考え方						平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績		
基本施策									
事業名									
③中高年向けのプログラム等の充実									
1	市民スポーツフェスティバル（再掲）	日頃スポーツをする機会の少ない市民を対象に簡単なレクリエーションスポーツを通じてスポーツの習慣化を図るとともにレクリエーションスポーツの振興を図ります。	体育協会	生涯学習スポーツ課	年1回10月体育の日600～1,000名参加 自由参加型イベント	毎年度継続実施。36競技団体の協力を得て、毎年多くの参加者がある。平成25年度からはストリート広場を会場としたスケートボード大会も同時に開催している。平成26年度の体育の日は1964年東京オリンピックから50周年を記念した聖火イベントを実施。	◎	体育協会、武蔵野生涯学習振興事業団との共催により実施。体育施設の1日無料開放も実施しており、子どもから高齢者まで多くの方が参加し、スポーツに親しむ機会を提供している。	
2	大人の体力測定（再掲）	トレーニング室に併設の体力測定室を有効に活用します。	武蔵野生涯学習振興事業団						【平成19年度】 開場日数 343日 利用者数 468人
3	スポーツ教室の充実（再掲）	5～10回程度の初心者対象の「スポーツ教室」や、1回ごとに受付の「ワンダーレッスン」を実施します。 水泳、弓道、アーチェリー、ソーシャルダンス、テニス、太極拳、エアロビクス、ヨガ、卓球 等	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 スポーツ教室 教室数 169教室 定員数 5,197人 応募者数 7,021人 参加者数 4,933人 延参加者数 29,507人 ワンダーレッスン 教室数 10教室 教室回数 756回 延参加者数 34,056人	初心者対象の水泳教室等を開催した。またその教室を卒業し自主的にサークル活動できるように支援を行った。予約なしで気軽に参加できるワンダーレッスンは、ピラティス、ボクササイズなど新プログラムも実施し、多くの市民が参加した。また、障害者向けに、ポールエクササイズやノルディックウォーキングなどの教室も実施した。	◎	ジュニア用のワンダーレッスンとして、屋外でのサッカー教室や障害者スポーツ教室のジュニア水泳等も実施した。今後も幅広い年齢層で誰もが参加できるプログラムを検討していく。		
4	野外活動事業の充実（再掲）	用具の貸し出しや貸切バスによる移動などで、気軽に参加できる事業を実施します。 登山、ハイキング、キャンプ、自然観察、アウトドアスポーツ等。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 野外活動事業 事業数 58事業 定員数 2,308人 応募者数 4,034人 参加人数 3,541人	レベル別に実施する登山教室は人気があり、多くの市民が参加した。また登山スクールや初心者登山教室も実施し安全な登山のできる技術を学ぶ機会を提供した。キャンプ用品の貸出しなどPRし、アウトドアを気軽に体験できる機会を提供した。	◎	体育施設内での展示や、市の主催する防災イベントなどへの参加など、今後も新たなPR方法とPR活動の場を検討していく。		
5	トレーニング室の運営（再掲）	総合体育館の開館時間中は、いつでも簡単な説明の後、トレーニングができるように運営します。必要に応じて指導を行います。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 開場日数 343日 初回登録者数 2,519人 利用者数 84,396人	毎日多くの方が利用している。ひとりでも運動を継続できる施設となっている。スポーツフェスティバルなどのイベント開催時には、無料開放するなどし、体験するきっかけを提供し、更に利用者を増やした。	◎	運動機器の入れ替えなど、環境整備を進めながら、今後も新規利用者を増やすため広報していく。		
6	子ども自然体験指導者講習会（再掲）	ジャンボリーなどで利用する自然の村周辺の動植物や天体、気象等の知識を持った指導者を育成するため、自然体験講習会を開催します。	児童青少年課	年3回講習会実施 平成20年度講習会出席者数 第1回28名、第2回22名 第3回14名	平成23年度から隔年開催に変更して、継続実施している。指導者基本講習、天文・気象講習、実地講習では野外調理、キャンプファイヤー、応急手当の実習を行った。	◎	地域での指導者の育成に資することができた。指導者の不足という課題も生じているため、今後も講習の機会を提供していく。		

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）							実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲		
【第3章】基本方針					所管課	実施状況		【B】進捗状況	【C】実績の評価と今後の取組
施策の考え方						平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績		
基本施策									
事業名									
		7	日本一周メタボ予防講座	エクササイズガイド2006の週23エクササイズを目標に、毎日歩数計をつけ、歩数を距離に換算し、地図上で日本一周を目指します。食事と運動を意識することで、毎日の健康づくりを管理栄養士と健康運動指導士が応援します。	健康づくり支援センター	年3期（1期3ヶ月）と夏休み親子限定講座（サマーチャレンジ）を実施 定員30名（平成20年度参加者延べ129名）	平成22年度で終了	★	—
		8	軽やか若ひざ体操講座	ひざ痛改善体操を自宅で毎日実施した記録をもとに、理学療法士が日常生活のアドバイスをを行います。	健康づくり支援センター	○通信講座 年3期、定員30名（平成20年度参加者延べ136名） ○事前説明会をかねた公開講座「ひざの話と体操」 年3回、定員50名（平	平成21年度で終了	★	—
		9	健康増進（健康づくり応援教室）アンチエイジングコース	基礎体力づくりや若さを保つための運動を行います。	健康づくり支援センター	年3期（1期12回） 定員30名	平成20年度で終了	★	—
		10	健康づくり活動情報誌	毎年、健康づくり活動情報誌に掲載する健康づくり活動団体を募集します。健康づくり活動情報誌は、40歳以上の市民が自分にあった健康づくり活動を探す助けとなるよう、市内で行われている健康づくり活動を紹介します。	健康づくり支援センター	年1回募集。 平成20年度健康づくり活動団体数63	平成22年度より市関連施設及び健康づくり支援センター事業の紹介を追加掲載。活動情報誌に関する市民意見等のアンケートを折り込み。健康づくりのポイントカードを添付。健康づくりはつらつメンバー全員に送付。平成26年度健康づくり活動団体数52。	◎	平成27年度より活用対象を40歳以上から20歳以上に変更。はつらつメンバーへの送付による配布数の増。市内講座等において健康づくり推進員より活動情報誌活用PR及び掲載活動団体の紹介も行い、活用促進への取組みを行っている。アンケート結果等により見直しも実施予定。
		11	健康増進（からだほぐし体操教室）（再掲）	リズム体操、ストレッチ等を組み合わせた運動実技を行います。	健康づくり支援センター	原則火・水・木実施。 平成20年度年122回実施。定員各35名。	名称を「健康体操教室」に変更し、自由来所制で継続実施中。 20歳以上の市民を対象に月・火・水・金曜日に実施。運動に慣れていない方でも無理なく行うことのできる簡単で効果のあるフィットネスプログラム。曜日ごとに強度の異なる運動を実施。	◎	参加者が継続的に多い人気講座であり、運動に慣れていない方のきっかけづくりとして成果を上げていると考える。平成26年度までの参加者は圧倒的に高齢者が多かったため、平成27年度より、水曜日を65歳以上の方向けとし、筋力向上プログラム・ストレッチ・脳トレ・転倒予防などの介護予防事業として実施。また、水曜日以外のクラスも、時間・内容をリニューアルし、若い世代に利用してもらえるよう見直しを行った。
		12	だんだん活力アップ体操	自宅のできる簡単筋力アップ体操を多数紹介します。リズムでだんだんは3分半の音楽に合わせて動く体操です。健康づくり支援センターでビデオ・DVD貸出しを行います。	健康づくり支援センター	武蔵野三鷹ケーブルテレビで1日2回（午前8時50分、午後6時）毎日放送。	継続実施中。月～金曜①午前9時20分～30分 ②午後12時50分～1時 ホームページで動画配信。むさしのFMで日曜日午前8時25分から放送。 健康づくりはつらつメンバーにDVDプレゼント。市内図書館にてDVD貸出あり。	◎	J:COM武蔵野三鷹を利用した放映については、費用対効果等を勘案したうえで今後の継続を検討する。
		13	日本一周KKC（健康・健脚・チャレンジ）	自分で決めた月の1日から3ヶ月間、毎日の歩数を記録し日本地図を塗ります。3ヶ月行い、感想を書いて健康づくり支援センターに来所します。	健康づくり支援センター	平成20年12月コースから開始。33人参加。	継続実施。平成23年度より、日本縦断KKC（健康健脚チャレンジ）に名称変更し、1か月毎に健康運動指導士によるアドバイス、3カ月目に希望者に食事診断を実施。更に3カ月の継続実施を勧奨。	◎	アンケート結果によれば、運動が習慣化した等の参加して様々な健康づくりの効果があった声が非常に多くある。平成27年度より参加者獲得のため、インボディ測定の特典を付加した。日本縦断達成の勧奨と、達成者のフェイスブック等での発表など検討実施していく。

実施・実施後継続中／◎
事業の一部を実施・実施後継続中／○
完了（実施後継続を伴わないもの）／★
検討・研究中／■
未着手／▲

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）						実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲			
【第3章】基本方針				スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		【B】進捗状況	【C】実績の評価と今後の取組
施策の考え方						平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績		
基本施策									
事業名									
④高齢者向けのプログラム等の充実									
		1	市民スポーツフェスティバル（再掲）	日頃スポーツをする機会の少ない市民を対象に簡単なレクリエーションスポーツを通じてスポーツの習慣化を図るとともにレクリエーションスポーツの振興を図ります。	体育協会 生涯学習スポーツ課	年1回10月体育の日600～1,000名参加 自由参加型イベント	毎年度継続実施。36競技団体の協力を得て、毎年多くの参加者がある。平成25年度からはストリート広場を会場としたスケートボード大会も同時に開催している。平成26年度の体育の日は1964年東京オリンピックから50周年を記念した聖火イベントを実施。	◎	体育協会、武蔵野生涯学習振興事業団との共催により実施。体育施設の1日無料開放も実施しており、子どもから高齢者まで多くの方が参加し、スポーツに親しむ機会を提供している。
		2	シルバースポーツ大会	高齢者のスポーツ活動の普及と健康増進・交流を目的として年1回10月に実施します。市内を4ブロックに分けて組対抗で得点を競う運動会形式で行います。	高齢者支援課	平成20年度 参加者数 952名	毎年継続して実施した。	◎	毎年、参加者は700名を超えている。参加者の体力に合わせた競技内容の見直しを行っていく。
		3	浴場開放事業（不老（風呂）体操）	市内8浴場及びコミュニティセンターで60分程度の健康体操を行います。公衆浴場では体操後無料で入浴できます。	高齢者支援課	平成19年度年間延べ参加者数14,459名。 平成20年度についても同等の参加があり、人気のある事業。	平成21年～平成26年度の間に8カ所あった浴場が廃業により5カ所に減少。しかし、会場をコミュニティセンター等に変更し、体操のみ継続して行っている。シルバースポーツ大会では、毎年、不老体操参加者全員で昼休みのアトラクションとして発表している。	◎	参加者は高齢化しているが、一方で長く通っている方も多く、介護予防や健康増進に寄与していると考える。会場である浴場が廃業し、体操のみの教室のほうが多くなっているが、参加者は継続する傾向にあり、今後は会場確保が課題である。
		4	地域健康クラブ	健康維持・増進と社会参加への動機づけ、仲間づくりを目的とし、市内16コミュニティセンター、ぐっどいう境南、くぬぎ園でストレッチ、リズム運動を行います。	高齢者支援課	平成19年度 定員を超える応募 平成20年度 会場を2カ所増設 また体力レベルの高い人向けのコースを3会場に新設。	コミュニティ協議会との共催事業として、地域で気軽に参加できるよう、コミュニティセンター等を会場としている。利用者は毎年1,000人を超えている。	◎	参加者は高齢化しており、会場内でのレベルの差が広がっている。今後は元気クラス、普通クラス、低体力クラスの3クラスに分け対応し、同時に増えていく参加者が安全に体操ができるように体制の見直しが必要である。
		5	社会活動センター体操講座	初心者の方を対象とした講座で、健康維持・増進と社会参加への動機づけ、閉じこもり防止などを目的とします。	高齢者支援課	年間講座・短期（6ヶ月）講座・自由入会講座などをレベル別に実施。 概ね定員を上回る応募。	各講座とも概ね定員を上回る応募があり、継続して実施した。	◎	初心者を対象とした事業であり、初めての方を優先し実施した。今後は自主的な活動へつなげるよう支援を検討している。
		6	健康増進（健康づくり応援教室）らくらく生活コース	日常生活に必要な筋力の維持・向上のための運動を行います。	健康づくり支援センター	年3期（1期12回） 定員30名	平成20年度で終了	★	—

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）							実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲			
【第3章】基本方針				スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		【B】進捗状況	【C】実績の評価と今後の取組	
施策の考え方						平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績			
基本施策										
事業名										
			7	健康増進 （健康づくり 応援教室） ころばぬコース	転倒予防に効果的な筋力をアップし、バランス良く歩けるような運動等の紹介をします。	健康づくり 支援センター	年3期（1期12回） 定員15名	継続実施	◎	毎回定員を上回る応募があり抽選となる。効果測定の結果により、参加者は参加することにより体力レベルを維持していると言える。平成26年度Ⅲ期より、落選者及び講座との併用によるレベルアップのフォローとして総合体育館のトレーニング室に体験からつなぐ取組みを実施中。
			8	筋力がつら つ！若返り教室	高齢者向けの機器（マシン）を利用して筋力、バランス、柔軟性、敏捷性などを向上させるトレーニングを行います。	健康づくり 支援センター	年3期（1期24回、週2回）定員25名	平成23年度で終了	★	—
			9	元気アップ体操	関節の動きを円滑にし、筋力アップを目的に行う3ヶ月のプログラムを実施します。	健康づくり 支援センター	年3期（1期12回） 定員30名	平成23年度で終了 平成24年度よりプロポーザルの実施により委託業者を変更し「にこにこ運動教室」（定員25名）に名称を変更して事業を継続。	◎	委託業者の報告によれば、継続参加者は明らかな運動効果が認められる。アンケート結果によれば、参加者の9割は運動が習慣化されている。継続参加を推奨する事業でないが継続の希望者が多数のため、自主グループ化等についても今後検討していく。
			10	いきいき体操	柔軟性向上、筋力アップを目的に行う3ヶ月間のプログラムを実施します。	健康づくり 支援センター	年3期（1期22回、週2回） 定員30名	平成23年度で終了 平成24年度よりプロポーザルの実施により委託業者を変更し「健康積立預筋体操教室」に名称を変更して事業を継続。	◎	委託業者の報告によれば、継続参加者は明らかな運動効果が認められる。アンケート結果によれば、参加者の7割は運動が習慣化されている。継続参加を推奨する事業でないが継続の希望者が多数のため、自主グループ化等についても今後検討していく。
			11	健康やわら体操	柔道場を会場とし柔道の「型」を取り入れた体操を行います。	健康課	年3期（1期10回） 定員20名	開催実施延べ回数（H21～H26年度 各30回） 参加実人数 H21→84 H22→72 H23→96 H24→84 H25→93 H26→87	◎	介護予防事業である。アンケートから、参加したことによる満足は得られている。新規参加者が少なくリピーターが多く、参加者の高齢化が見られ、終了後のつなぐ場所が課題となっている。開始時と終了時に効果測定を行っているが、参加者の3割程度の方が運動能力が向上している。H27は介護保険制度の改正があり、関係機関と連携して事業の見直しを行っていく。
			12	スポーツ教室の実施	特に、高齢者を対象にしたスポーツ教室を実施します。 シルバースポーツランド、60歳からの足腰トレーニング教室、水中いきいき体操教室 等	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 主に高齢者を対象にしたスポーツ教室 年間11教室 週1回×9～10回コース 応募数 236人 参加数 232人 主に高齢者を対象にしたワンダーレッスン 年間 45日開催 参加数 1,329人	予約なしで気軽に参加できるワンダーレッスンは、ヨガや気功、ラージボール卓球など参加しやすいプログラムを用意している。また概ね60歳以上の方向けに体操などいくつかの種目を組み合わせて実施しているシルバースポーツランドを実施し、多くの市民が参加した。	◎	幼児から高齢者まで、今後も幅広い年齢層が参加できるプログラムを検討していく。

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）						実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲			
【第3章】基本方針				スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		【B】進捗状況	【C】実績の評価と今後の取組
施策の考え方						平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績		
基本施策									
事業名									
2 継続するための取組【つなぐ】									
(1) 気軽にできるスポーツの普及促進									
①一人でもできるスポーツの促進									
	1	トレーニング室の運営（再掲）	総合体育館の開館時間中は、いつでも簡単な説明の後、トレーニングができるように運営します。必要に応じて指導を行います。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 開場日数 343日 初回登録者数 2,519人 利用者数 84,396人	毎日多くの方が利用している。ひとりでも運動を継続できる施設となっている。スポーツフェスティバルなどのイベント開催時には、無料開放するなどし、体験するきっかけを提供し、更に利用者を増やした。	◎	運動機器の入れ替えなど、環境整備を進めながら、今後も新規利用者を増やすため広報していく。	
	2	温水プール、屋外プールの運営	年間を通して、開放します。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 開場日数 335日 個人利用者数 158,986人	温水プールは年間を通じ多くの方が利用した。また屋外プールがオープンする夏季期間は、小中学生の利用料金を10円のままとし、毎年多くの方が利用している。	◎	今後も誰もが利用しやすい施設として整備していく。	
	3	ウォーキング、公園でのラジオ体操等	各地域及び団体等により随時開催します。	関係各課	（記載なし）	各地域ごとに、各団体等により自主的に公園で実施している。また夏休みなどは小学生等に向けたラジオ体操も毎年実施している。	◎	地域の自主的な活動を今後支援していく。	
	4	さあ始めようウォーキング（再掲）	正しい歩き方や靴の履き方のレクチャーと4km強のウォーキングを行います。	健康づくり支援センター	平成20年度年10回実施。（7、8月をのぞく毎月実施）	平成21年度より平成26年度まで、年10回程度継続実施	○	参加者数及びアンケート結果等から、これまではウォーキングのきっかけづくりとして一定の成果を上げたと言える。平成27年度より、ウォーキング人口が増えウォーキングへの意識が高まってきた時代の変化に合わせ、仲間づくりやターゲット・テーマを明確にした企画による実施に変更。60代以上を対象とした初級・中級クラス、20～50代の女性を対象とした強度の高い講座等を、複数回のコースにより実施。	
	5	だんだん活力アップ体操キャラバン隊（再掲）	市内各所（イベント含む）でだんだん活力アップ体操の紹介を行います。	健康づくり支援センター	平成20年度年10回実施。	平成21年度からは、市内団体等からの依頼により実施。また、高齢者を対象とした各種講座等において実施。	○	市内イベント及び各種講座で広く実施した結果、現在では体操を収録したDVDにより毎朝体操を行っている市内施設も数件ある。今後も更に普及していくため、健康づくり推進員により地域に周知を行うとともに実施を継続していく。	
	6	日本一周メタボ予防講座（再掲）	エクササイズが1日の2006の週23エクササイズを目標に、毎日歩数計をつけ、歩数を距離に換算し、地図上で日本一周を目指します。食事と運動を意識することで、毎日の健康づくりを管理栄養士と健康運動指導士が応援します。	健康づくり支援センター	年3期（1期3ヶ月）と夏休み親子限定講座（サマーチャレンジ）を実施。定員30名（平成20年度参加者延べ129名）	平成22年度で終了	★		
	7	日本一周KKC（健康・健脚・チャレンジャー）（再掲）	自分で決めた月の1日から3ヶ月間、毎日の歩数を記録し日本地図を塗ります。3ヶ月行い、感想を書いて健康づくり支援センターに来所します。	健康づくり支援センター	平成20年12月コースから開始。33人参加。	継続実施。平成23年度より、日本縦断KKC（健康健脚チャレンジャー）に名称変更し、1か月毎に健康運動指導士によるアドバイス、3カ月目に希望者に食事診断を実施。更に3カ月の継続実施を勧奨。	◎	アンケート結果によれば、運動が習慣化した等の参加して様々な健康づくりの効果があつた声が非常に多くある。平成27年度より参加者獲得のため、インボディ測定の特典を付加した。日本縦断達成の勧奨と、達成者のフェイスブック等での発表など検討実施していく。	

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）							実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲		
【第3章】基本方針				スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		【B】進捗状況	【C】実績の評価と今後の取組
施策の考え方		平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績						
基本施策									
事業名									
②自宅でできるスポーツの促進（★3：重点施策）									
	1	だんだん活力アップ体操（再掲）	自宅でできる簡単筋力アップ体操を多数紹介します。リズムでだんだんは3分半の音楽に合わせて動く体操です。健康づくり支援センターでビデオ・DVD貸出しを行います。	健康づくり支援センター	武蔵野三鷹ケーブルテレビで1日2回（午前8時50分、午後6時）毎日放送。	継続実施中。月～金曜①午前9時20分～30分 ②午後12時50分～1時 ホームページで動画配信。むさしのFMで日曜午前8時25分から放送。 健康づくりはつつメンバーにDVDプレゼント。市内図書館にてDVD貸出あり。	◎	J:COM武蔵野三鷹を利用した放映については、費用対効果等を勘案したうえで今後の継続を検討する。	
（2）ステップアップできる機会の創出									
①ステップアップするためのプログラム									
	1	市民体育大会・市民体育祭	広く市民にスポーツ振興を図り健康増進と体力向上を図ります。	生涯学習スポーツ課	年2期 春・秋 35種目 各期7,000名参加 参加登録制	市民体育大会・体育祭は体育協会加盟の36の競技団体が、様々なプログラムを展開し、小学生から高齢者まで毎年多くの市民が参加している。	◎	バレーボール、サッカーなどから登山、ウォーキング、ライフル射撃、ソーシャルダンスなど多種多様な種目を用意している。27年度は加盟団体が37になり、参加者を増やしている。	
	2	レベル別プログラムの実施	初心者対象の教室とは別に、経験者向けの教室を実施します。 エアロビクスでの経験者クラスの設定、テニス経験者向けのクリニック、トライアスロン教室、5段階のレベル別での登山 等	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 主に経験者を対象にしたスポーツ教室 教室数 6教室 応募数 204人 参加数 184人 主に経験者を対象にしたワンダーレッスン 開催数 91回 参加数 3,695人 主に経験者が対象の野外活動事業 事業数 3事業 応募数 191人 参加数 95人	レベル別の教室を実施することにより、順番にランクをあげていくこともでき、また自分のレベルに合わせた教室を選択することが可能であり、多くの人が参加できる機会を提供している。	◎	今後も誰もが参加しやすく、また継続できるプログラムを検討していく。	
	3	イベント	トレーニングの成果を発揮できる場を提供（競技大会への入門レベル）します。 アクアスロン大会、エアロビクスコンテスト	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 事業数 2事業 応募者数 481人 参加者数 429人	毎年アクアスロン大会や、駅伝・マラソン大会を開催し、多くの方が参加している。また障害者が参加できるように環境を整えている。	◎	2020年の東京オリンピック・パラリンピックや2019年のラグビーワールドカップの日本開催を踏まえ、関連したスポーツイベントを開催していく。	

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）						実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲	
【第3章】基本方針		スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		【B】進捗状況	【C】実績の評価と今後の取組
施策の考え方				平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績		
基本施策							
事業名							
②一人多種目スポーツの推進							
1	市民体育大会・市民体育祭（再掲）	広く市民にスポーツ振興を図り健康増進と体力向上を図ります。	生涯学習スポーツ課	年2期 春・秋 35種目 各期7,000名参加 参加登録制	市民体育大会・体育祭は体育協会加盟の36の競技団体が、様々なプログラムを展開し、小学生から高齢者まで毎年多くの市民が参加している。	◎	バレーボール、サッカーなどから登山、ウォーキング、ライフ射撃、ソーシャルダンスなど多種多様な種目を用意している。27年度は加盟団体が37になり、参加者を増やしている。
2	施設開放、スポーツ教室の実施	施設開放とあわせて、各曜日、各時間にプログラムを設定し、都合に合わせた参加を可能にします。スポーツ教室と個人利用を組み合わせる利用や興味にあわせたスポーツ教室と野外活動などの参加が可能となります。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 ○トレーニング室 開場日数 343日 初回登録者数 2,519人 利用者数 84,396人 ○プール 開場日数 335日 個人利用者数 158,986人 スポーツ教室 教室数 169教室 定員数 5,197人 応募者数 7,021人 参加者数 4,933人 延参加者数 29,507人 ○ワンデーレッスン 教室数 10教室 教室回数 756回 延参加者数 34,056人 ○野外活動事業 事業数 58事業 定員数 2,308人 応募者数 4,034人 参加人数 3,541人	テニスコートやプール、陸上競技場など各種施設が総合体育館に隣接しており、好きな施設を組み合わせる利用することができる。また予約なしで利用できる教室（ワンデーレッスン）など組合せて参加することもできる。野外活動センターが同館内にあり、気軽に立ち寄ることができる。	◎	今後も利用しやすい施設の整備を継続し、各種スポーツや登山・キャンプ等野外活動など多種多様なプログラムを提供していく。
3	アウトドアスポーツ事業（再掲）	はじめてのサーフィンやクライミング、スキングダイビングなど若者にも人気のあるアウトドアスポーツの事業を進めています。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 事業数 6事業 応募者数 346人 参加者数 188人	ワカサギ釣りやスキングダイビングなど多彩のプログラムを実施した。また、オリンピック競技として人気のカーリングなども実施し、東京では体験できない貴重な機会を提供した。	◎	アウトドアスポーツは人気があり、近くで気軽に体験できる場の提供は重要である。今後も様々なプログラムを検討していく。
4	シーズンスポーツの促進	継続性をもたせる工夫として、季節に応じた変化をスポーツの種目にも取り入れます。多様な種目を行うことは、身体機能の充実につながると思われたい。同時に、新たな仲間づくりにつながることが期待されます。 (例)夏季の事業：サーフィン、スキングダイビング、キャンプ、屋外プールの開放等 冬季の事業：スノーキャンプ、スノーボード 等	武蔵野生涯学習振興事業団	※「施設開放、スポーツ教室の実施」と同様	テニスコートやプール、陸上競技場など各種施設が総合体育館に隣接しており、好きな施設を組み合わせる利用することができる。屋外プールの開放やアクアスロン大会の開催など季節に応じたプログラムを提供している。	◎	今後も利用しやすい施設の整備を継続し、多種多様なプログラムを提供していく。

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）						実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲			
【第3章】基本方針				スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		【B】進捗状況	【C】実績の評価と今後の取組
施策の考え方						平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績		
基本施策									
事業名									
3 既存資源の有効活用 【活かす】									
（1）既存の施設や場の活用									
①身近な公園などの活用 （★4：重点施策）									
	1	市民スポーツデー（再掲）	市立小学校の校庭、体育館にて、月1回施設開放を行い、体力向上とスポーツ振興並びに家庭・学校・地域の一体化を図ります。	生涯学習スポーツ課	毎月第3日曜日午後（7月、8月、3月除く）学校校庭、体育館の開放	毎年度継続実施。平成25年度に実施回数を見直し、小学校ごとに年5回程度の開催とした。回数は減ったが、特別イベントの開催など内容を充実させ、参加者数が増加した。	◎	スポーツ推進委員の協力も得て、スポーツイベントを開催し、参加者数は増加している。また市民への周知方法も、ポスター、フェイスブック、ツイッターなど増やしたため、小学校区域を越え、また高齢者の参加も増加した。	
	2	特色ある公園づくり	都市環境改善、生態系保全、レクリエーション、都市景観構成、防災の5つの緑の役割と地域的な特徴を考慮し整備をします。そのうえで、地域ニーズを踏まえ、特色ある公園づくりを進めます。	緑のまち推進課	公園、緑地の中では遊具のある公園やボール遊びのできる公園、水で遊べる公園等様々な特色を持たせつつ機能の分担を行いながら整備中。	平成21年度 中央通りさくら並木公園 新設公園 平成22年度 境南中央公園 新設公園 平成23年度 桜堤二丁目防災広場公園 新設工事 平成25年度 吉祥寺の杜 宮本小路公園 新設工事 平成25年度 本田東公園 改修工事 平成26年度 吉祥寺東町ふれあい公園 新設工事 平成26年度 すくすく泉公園 新設工事 平成26年度 農業ふれあい公園 拡充工事	◎	ワークショップや意見交換会を行い、地域の意向を踏まえた特色のある公園を整備した。今後新規の公園用地の取得が困難な状況から、既存のストックを有効活用した特色のある公園づくりを進めていく。	
	3	プレーパーク（境冒険遊び場）	「子どもが自由な発想で自由に遊べる」環境で、「土、火、水との触れあい」や「様々な年代との交流」を体験し、感性や生きる力を磨きます。また子どもを通じた地域コミュニティの活性化を促します。	児童青少年課	平成20年7月より実施 開園時間：水～日曜日（午前10時～午後5時まで。但し11月～3月までは午後4時まで） 休業期間① 12月28日～1月4日② 8月13日～15日	毎年度継続実施。平成22年度からは3月も午後5時までの実施に変更。子どもたちが自由な発想で遊べる場として、通常の運営のほか、各種イベントなどの企画も実施してきた。	◎	開園後来場者も年々増加し、地域のコミュニティの場としても定着している。他の地域でも体験ができるよう出張プレーパークも実施し、今後も拡充を図りながら、地域での活動の支援等も行っていく。	
	計画期間中に新たに 取り組んだ事業	1	ウォーキングルートマップの活用			市内スポーツマップを作成し、市内にあるスポーツ施設（公立・民間）の案内やジョギングコースやウォーキングコースを紹介した。	◎	今後も内容を更新し、定期的に発行していく。	
②スポーツ関連施設の活用									
	1	市民スポーツデー（再掲）	市立小学校の校庭、体育館にて、月1回施設開放を行い、体力向上とスポーツ振興並びに家庭・学校・地域の一体化を図ります。	生涯学習スポーツ課	毎月第3日曜日午後（7月、8月、3月除く）学校校庭、体育館の開放	毎年度継続実施。平成25年度に実施回数を見直し、小学校ごとに年5回程度の開催とした。回数は減ったが、特別イベントの開催など内容を充実させ、参加者数が増加した。	◎	スポーツ推進委員の協力も得て、スポーツイベントを開催し、参加者数は増加している。また市民への周知方法も、ポスター、フェイスブック、ツイッターなど増やしたため、小学校区域を越え、また高齢者の参加も増加した。	

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）							実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲		
【第3章】基本方針				スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		【B】進捗状況	【C】実績の評価と今後の取組
施策の考え方						平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績		
基本施策									
		事業名							
			2	市立小中学校の施設開放	学習、文化、スポーツ等地域活動の場として市立小中学校施設を市民に開放します。	生涯学習スポーツ課	団体登録を行ったうえで、施設使用の申請。	◎	市内にある市立の小中学校だけではなく、都立高校の開放も行われている。できるだけ多くの既存施設を活用し、多くの市民が住居の近くで気軽にスポーツができる環境を整えていく。
			3	コミュニティセンター自主事業、登録活動団体の取組	各コミュニティセンターにて様々な行事（ヨガ教室、ナイトハイク、歩こう会などの主催、スポーツ施設の自由利用等）を実施します。	市民活動推進課	ヨガ教室、健康体操、ナイトハイク、モーニングハイク、ウォーキング、ダンスパーティー等の主催。スポーツ施設での卓球などの自由利用 等	◎	体育館の利用は子どもから高齢者まで幅広いため、子どものための時間を設けて、利用しやすい工夫している。
			4	コミュニティセンターを利用した「ひざの話と体操」「はつらつメンバーの集い」	周辺住民が参加しやすいようにコミュニティセンターを使用したひざまたは健康づくりの講座を実施します。	健康づくり支援センター	平成20年度6回実施。 「ひざの話と体操」は平成21年度で終了 「はつらつメンバーの集い」は継続実施。	○	「はつらつメンバーの集い」は、健康づくり出前講座のプログラムや測定等を健康づくり推進員の企画で実施している。参加者のニーズを拾い上げるとともに反映し、新たな参加者の獲得や仲間づくり等の継続支援につなげるため、今後も実施予定。
			③地域の学校・民間企業等と連携						
			1	スポーツ教室等の開催	民間のスポーツ施設を使ったスポーツ教室等を開催します。	生涯学習スポーツ課	地元企業の体育館でのヨガ教室等の実施。	◎	今後は地域のスポーツクラブや大学などとの連携を検討していく。
			2	市内スポーツ団体等の紹介	スポーツイベントの際に市内スポーツ団体やアスリートの紹介をします。	生涯学習スポーツ課	自由参加型イベントのプログラムの一つとして、各種競技のデモ演技・紹介等（市内大学運動部、企業内スポーツ団体等）	◎	今後も市内の企業チームや、地域のスポーツクラブ、大学と連携をしていく。
			3	武蔵野地域自由大学	スポーツに関連した講座を実施します。	生涯学習スポーツ課	（記載なし）	◎	東京オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ日本開催に向けて、近隣五大学が工夫をこらした講座を実施することが期待される。

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）							実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲			
【第3章】基本方針					スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		【B】進捗状況	【C】実績の評価と今後の取組
施策の考え方							平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績		
基本施策										
事業名										
		4	民間スポーツクラブとの連携事業	民間のスポーツクラブで充実しているプログラムを、手軽に体験することが可能です。民間スポーツクラブ等へ、スポーツ教室の指導の委託などを行います。（教室終了後、希望者はそのスクールへ紹介が可能）	武蔵野生涯学習振興事業団	エアロビクス、ピラティス、ヨガ等 幼児水泳、親子水泳等	サッカーやエアロビクスなど民間スポーツクラブに教室の運営を委託し実施することにより、充実した内容のプログラムを提供した。	◎	今後も充実したプログラムの実施を継続していく。	
		5	いきいき体操（再掲）	柔軟性向上、筋力アップを目的に行う3ヶ月間のプログラムを実施します。	健康づくり支援センター	年3期（1期22回、週2回） 定員30名	平成23年度で終了 平成24年度よりプロポーザルの実施により委託業者を変更し「にこにこ運動教室」（定員25名）に名称を変更して事業を継続。	◎	委託業者の報告によれば、継続参加者は明らかな運動効果が認められる。アンケート結果によれば、参加者の9割は運動が習慣化されている。継続参加を推奨する事業でないが継続の希望者が多数のため、自主グループ化等についても今後検討していく。	
		6	元気アップ体操（再掲）	関節の動きを円滑にし、筋力アップを目的に行う3ヶ月のプログラムを実施します。	健康づくり支援センター	年3期（1期12回） 定員30名	平成23年度で終了 平成24年度よりプロポーザルの実施により委託業者を変更し「健康積立預筋体操教室」に名称を変更して事業を継続。	◎	委託業者の報告によれば、継続参加者は明らかな運動効果が認められる。アンケート結果によれば、参加者の7割は運動が習慣化されている。継続参加を推奨する事業でないが継続の希望者が多数のため、自主グループ化等についても今後検討していく。	
		7	高齢者健康づくり推進モデル事業	市内民間事業者が行う健康づくり事業を支援し、高齢者の健康増進を図ります。	高齢者支援課	民間のスイミングクラブでの水泳教室・水中運動、カラオケボックスでのカラオケ教室の実施等	平成23年度からスイミングクラブが廃業となり、カラオケ教室の実施のみとなった。また、平成26年度には補助金の見直しやカラオケ教室の実施主体と講師からの申し出により、カラオケ教室をやめることになり事業廃止となった。	★	高齢者の健康増進のきっかけづくりとして始められた事業であるが、社会活動センターや健康課での事業など、健康増進、介護予防等の事業は他でも実施されているため、事業を見直し廃止とした。	
(2) 人的資源の活用										
①教えることから始めるスポーツの促進										
		1	スポーツ指導員の活用ボランティア制度	指導者としてスポーツをはじめるきっかけづくりの創出をします。	生涯学習スポーツ課	体育協会スポーツ指導員	市の体育協会では競技団体ごとに企画する指導者講習会を毎年実施した。	◎	体育協会スポーツ指導員だけではなく、スポーツ推進委員も含めその活用を今後も検討していく。	
②地域におけるスポーツの担い手づくりの充実（★5：重点施策）										
		1	スポーツ指導員の活用ボランティア制度（再掲）	指導者としてスポーツをはじめるきっかけづくりの創出をします。	生涯学習スポーツ課	体育協会スポーツ指導員	市の体育協会では競技団体ごとに企画する指導者講習会を毎年実施した。	◎	体育協会スポーツ指導員だけではなく、スポーツ推進委員も含めその活用を今後も検討していく。	

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）							実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲			
【第3章】基本方針					スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		【B】進捗状況	【C】実績の評価と今後の取組
施策の考え方							平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績		
基本施策										
事業名										
			2	体育指導委員協議会	体育指導委員：『スポーツ振興法』で規定されており、当該市町村におけるスポーツ振興のため、住民に対し、スポーツの実技の指導その他スポーツに関する指導及び助言を行います。地域からの要請により地域のスポーツコーディネーターとして活動します。	生涯学習スポーツ課	土曜学校スポーツ教室（毎週土曜日）ファミリースポーツフェア（年1回イベント）その他各地域より要請されたスポーツ行事の運営等。各12小学校区域に2名配置、計24名。	平成23年度にスポーツ基本法が制定され、体育指導員からスポーツ推進委員へと名称が変更となり、その役割も強化された。小学校区ごとに配置され、地域の要請でスポーツ大会の審判や、スポーツの指導を行った。	◎	ラグビーワールドカップ日本開催や東京オリンピック・パラリンピックに向けて、障害者スポーツの理解促進や啓発にスポーツ推進委員の関わりが期待されている。
			3	地域におけるスポーツ団体及び青少年関係団体の活動	主に各小・中学校区域において様々なスポーツ団体及び青少年関係団体が活動しています。	児童青少年課	（記載なし）	毎年度継続実施。青少年団体に対するバス借上事業は平成24年度から市負担額の上限を減額した。講師謝礼補助は年1回2万円限度（総経費の半額まで）に実施。青少年団体指導者の保険加入も実施している。	◎	青少年関係団体の育成及び援助に資することができた。今後も育成・支援を継続していく。
						生涯学習スポーツ課		学校開放などにより、多くの団体が地域で活動し、保護者を含む多くの方が青少年の活動に参加し指導している。	◎	今後も地域で活動できるように、環境を整備していく。
			4	野外活動サポートスタッフ	キャンプ、自然観察、アウトドアスポーツなどに興味・理解がある方を対象にサポートスタッフとして登録を行う制度。野外活動センター主催事業や市の開催するキャンプ事業、市立小中学校のセカンドスクール等の運営・補助業務を行います。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】登録者数 37名 講習会 7回 応募者数 85人 参加者数 85人	野外活動をサポートするため、年間10回前後の講習会を実施し、スタッフを育成している。	◎	アウトドアは人気があり、様々な活動を支援するため今後もサポートスタッフの育成事業を継続していく。
			5	専門職の人材バンク	健康づくりに関する専門的な知識を持ち、市民の要望に応じて地域に出向いて様々な形で健康講座を実施する講師を登録します。	健康づくり支援センター	（記載なし）	健康づくりプログラムの作成実施等により、健康づくりの専門的な支援を継続実施。平成26年度の登録数74人。平成26年度より、市内団体・グループ等だけでなく、市内の企業等に対しても講座等への健康づくり人材バンクの紹介を開始。（有償）	◎	健康づくり支援センターの健康づくりの専門的な支援を支えている登録制度である。平成27年度より地域と連携した健康づくり事業において、継続支援や仲間づくりにおいても講師として可能な協力を開始。
			計画期間中に新たに取組んだ事業	1	（仮称）スポーツ人材登録事業	地域でスポーツに関する指導・サポートを行う人やスポーツに関するイベントの企画・運営を行う人などを広く登録し、ネットワーク化を図ることなどを通じて、地域でのスポーツ振興に向けた人材の育成を図ります。			体育協会を通じた指導者育成や審判養成、またスポーツ推進委員が研修会等で得た技術をスポーツデー等で活かすなど地域のスポーツ振興につとめた。	○

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）						実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲			
【第3章】基本方針				スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		【B】進捗状況	【C】実績の評価と今後の取組
施策の考え方						平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績		
基本施策									
事業名									
③スポーツ功労者の表彰制度の創設									
	計画期間中に新たに	1	（仮称）むさしの市民スポーツ功労賞の創設	地域の団体で草の根的な活動等を継続している方を表彰し、地域のスポーツ振興を図ります。			体育協会では地域で活動するスポーツ団体や大会等で優秀な成績をおさめた方の表彰を実施した。	○	今後も実施を継続する。
（3）現行プログラムを活かした工夫									
①スポーツ振興の視点からの把握と整理									
		1	庁内ワーキングチームでの検討	関係各課及び関連団体との連携を強化し、事業の効率的かつ円滑な運営を図ります。	生涯学習スポーツ課	体育協会スポーツ指導員	健康づくり支援センターと連携し、総合体育館で実施しているスポーツプログラムの内容を精査し事業を実施した。	◎	今後も関係課等と連携し、事業を実施していく。
②様々な分野を組み合わせた機会等の充実（★6：重点施策）									
		1	文化財ウォーキング	市内の文化財を巡るウォーキングを実施します。	生涯学習スポーツ課	（記載なし）	毎年文化財とその散策コースを紹介したマップを発行し、配布している。	◎	多くの方に利用してもらうため、今後も発行を継続する。
		2	親子食育ウォーキング（再掲）	正しい姿勢や歩き方の指導を受けてウォーキングを行います。途中農家に立ち寄り、農家の方から話を聞いたり、コンビニエンスストアで選んだおやつをもとに、食育講座を実施します。また、クールダウンのストレッチも行います。	健康づくり支援センター	年3回 定員10組20名（平成20年度参加者延べ61名）	平成26年度までは募集型と出前型で実施継続	○	親子体験プログラムとして非常に人気が高い啓発講座である。事業のノウハウが確立したため、平成27年度より出前型のみとする。 健康づくり推進員企画により出前型の実施のサポートもあわせて行う。
4 ライフスタイルの構築 【育む】									
（1）スポーツを通じた健やかな成長									
①スポーツのもつ魅力の発見（★7：重点施策）									
	計画期間中に新たに	1	スポーツのもつ様々な魅力を体験するイベントへの参加等	スポーツを多角的な角度から楽しめるよう、様々なスポーツイベントに参加する機会を創出します。 （例）スポーツ選手と語り合うイベント、記者やライターの視点から語ってもらうイベント、スポーツ振興についてのシンポジウム等			体操のお兄さんである佐藤弘道氏による親子体操イベントでは、体操指導のみならず、親子のふれあい、コミュニケーションが子どもの将来の体力等に寄与するなど、メッセージ性のあるイベントを開催した。	◎	今後も魅力あるプログラムの実施を検討していく。

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）						実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲			
【第3章】基本方針				スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		【B】進捗状況	【C】実績の評価と今後の取組
施策の考え方		平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績						
基本施策									
事業名									
②スポーツを通じた社会性の形成									
	1	地域におけるスポーツ団体及び青少年関係団体の活動（再掲）	主に各小・中学校区域において様々なスポーツ団体及び青少年関係団体が活動しています。	児童青少年課	（記載なし）	毎年度継続実施。青少年団体に対するバス借上事業は平成24年度から市負担額の上限を減額した。講師謝礼補助は年1回2万円限度（総経費の半額まで）に実施。青少年団体指導者の保険加入も実施している。	◎	青少年関係団体の育成及び援助に資することができた。今後も育成・支援を継続していく。	
				生涯学習スポーツ課		学校開放などにより、多くの団体が地域で活動し、保護者を含む多くの方が青少年の活動に参加し指導している。	◎	今後も地域で活動できるように、環境を整備していく。	
	2	中学生高校生リーダー講習会	中学生・高校生が地域活動の担い手として活躍できる力（知識・意識・ノウハウ）を身に付けられるように、公共施設や地域社会の組織を利用して、野外活動・保育・植林・イベントボランティアなど様々な講習会や体験事業を行います。	児童青少年課	平成20年度新規講習会参加登録者数 83名 講習会年6回開催	毎年度継続実施。リーダーの心得講座、火付け・野外調理・テント張り等のキャンプ講習、救急法講習のほか、保育体験ボランティア、イベントボランティアなどを行った。また、平成25年度からは中高生リーダー自身が楽しみながら野外活動のスキルをさらに向上する「次世代担い手育成キャンプ」を開始した。	◎	講習、ボランティア参加等を通じて、青少年の健全育成、将来地域の担い手となるリーダーの育成に資することができた。今後もリーダー育成の取組みを進めていく。	
	3	むさしのジャンボリー（再掲）	豊かな自然環境の中での共同生活を通し、子どもたちの「自立心」や「創造性」、「自然への興味と理解」を育むことと、地域の中学・高校生を地域でのボランティア活動に取り込み、地域で青少年を育てていく環境作りを目的に、市と青少年問題協議会地区委員会の共催で実施します	児童青少年課	平成20年度で第37回目を実施 年1回夏休み中実施 市と青少年問題協議会地区委員会（12地区）で共催 自然体験・野外活動 2泊3日 参加人数については60頁を参照。	毎年度継続実施。2泊3日でハイキング、野外調理、キャンプファイヤーなど各地区で企画したプログラムを行った。平成21年度から24年度は11クール、25年度・26年度は12クールで開催した。平成23年度には40周年記念事業として、記念式典、記念展示、DVDとパンフレットの作成等を行った。	◎	児童の健全育成に資するとともに、将来の地域の担い手を育てる環境作りを行うことができた。今後も青少年問題協議会地区委員会と協力してより充実した自然体験活動の機会を提供していく。	
	4	野外活動サポートスタッフ（再掲）	キャンプ、自然観察、アウトドアスポーツなどに興味・理解がある方を対象にサポートスタッフとして登録を行う制度。野外活動センター主催事業や市の開催するキャンプ事業、市立小中学校のセカンドスクール等の運営・補助業務を行います。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】登録者数 37名 講習会 7回 応募者数 85人 参加者数 85人	野外活動をサポートするため、年間10回前後の講習会を実施し、スタッフを育成している。	◎	アウトドアは人気があり、様々な活動を支援するため今後もサポートスタッフの育成事業を継続していく。	
③仲間づくりの促進									
	1	子育てママのスポーツ教室（再掲）	日頃子育てに追われスポーツを行う機会の少ない母親を対象に気軽にできるスポーツを楽しみながら、健康増進と参加者相互の交流の場の提供を行います。	生涯学習スポーツ課	年3期 3B体操、フィットネスジャズダンス、ヨガ 20～30名定員 保育者 コミュニティセンターにて実施	ピラティスや脂肪燃焼エクササイズなど、人気のプログラムを実施し、毎年定員を超える応募がある。	◎	スポーツをする機会の少ない子育て世代に、地域でスポーツの場を提供している。平成23年度から指定管理者に委託するに伴い「子育て支援スポーツ教室」に名称変更した。	

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）							実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲			
【第3章】基本方針					スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		【B】進捗状況	【C】実績の評価と今後の取組
施策の考え方							平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績		
基本施策										
事業名										
		2	各種大会、教室等での交流	各種大会、教室等の啓発を行い、市民のスポーツ活動への参加を促進します。	関係各課 （市民活動推進課記載）	（記載なし）	各コミセンが主催するスポーツ関係事業は次のとおり。 本宿（ロコモ体操・年1回）、南町コミセン（わんぱく相撲大会・年2回）吉祥寺西【あるこうかい】（都内名所ウォーキング・年4回）、吉祥寺北（バドルテニス・年15回）、けやき【風と歩こう】（都内ウォーキング・年12回）、中央【ピンポンの日】（第4土曜・子ども対象）、【らくらくヨーガ】（年1回）、西久保・関前共催【多摩湖往復ナイトハイク】（年1回）、緑町【ウォーキング】（近郊散策・年1回）、関前（スカットボール・年1回）、八幡町【歩こう会】（都内散策・年2回）、西部【太極拳・気功表演会】（年1回）、【ちびっこ運動会】（年1回）、【夏休み卓球教室】（年2回）、境南【スポーツ活動講座】（中国気功・月2回、フォークダンス・月2回）【モーニングハイク・年1回】	◎	コミュニティ協議会が主体となり、地域のニーズに合わせた各種のスポーツイベント等を開催している。ポーツを通じた地域住民の交流が図られている。 運営委員の年齢層が高いこともあり、比較的高齢者を対象とした事業が多いことが課題である。またスポーツ関係も含めて主催教室は縮小傾向にあるため、コミセンが主催して実施するためには、誰もが参加しやすい種目等を検討しなければならない。	
		3	市内中学校総合体育大会	市内の公・私立中学校の生徒を対象に、各種目の競技に対する正しい知識と基礎的な技術を習得し、あわせて体育に対する関心を深め、健全な心身を鍛え、他校（同じ競技をする生徒）との親睦を図ることで、学校体育の向上を図ることを目的として体育大会を実施します。	指導課	平成19年度（第43回）参加生徒数：3,008名 種目：バスケットボール、バレーボール、バトミントン、卓球、剣道、サッカー、野球、ソフトボール、ソフトテニス、テニス、水泳、陸上競技	毎年度継続実施。 種目：バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球、剣道、サッカー、野球、ソフトボール、ソフトテニス、テニス、水泳、陸上	◎	スポーツを通して市内の公・私立中学校の生徒が交流を深め、他校の生徒と切磋琢磨しながらスポーツを楽しむ機会を子どもたちに与えることができた。 今後も更なる充実を図る。	
(2) スポーツによる地域の活性化										
①スポーツによる地域の魅力づくり										
		1	地域スポーツイベント	地域主催のスポーツ関連行事などを促進します。	生涯学習スポーツ課	地域運動会、ナイトハイク、ウォーキング、スポーツ教室、ラジオ体操 等	地域主催で実施した運動会等のスポーツイベントに補助金を支出した。	◎	子ども文化・スポーツ・体験事業基金等の活用も含め今後の取組を検討する。	
	計画期間中に新たに	2	総合型地域スポーツクラブの調査・研究	総合型地域スポーツクラブについて、他自治体の事例等を調査し、武蔵野市モデルといえるクラブ像を研究します。			スポーツ推進委員の協力によりスポークラブを立ち上げ、総合型地域スポーツクラブ像を検討した。	◎	今後も継続して調査研究していく。	
②地域とのつながり・一体感の形成（★8：重点施策）										
		1	市民スポーツデー（再掲）	市立小学校の校庭、体育館にて、月1回施設開放を行い、体力向上とスポーツ振興並びに家庭・学校・地域の一体化を図ります。	生涯学習スポーツ課	毎月第3日曜日午後（7月、8月、3月除く） 学校校庭、体育館の開放	毎年度継続実施。平成25年度に実施回数を見直し、小学校ごとに年5回程度の開催とした。回数は減ったが、特別イベントの開催など内容を充実させ、参加者数が増加した。	◎	スポーツ推進委員の協力も得て、スポーツイベントを開催し、参加者数は増加している。また市民への周知方法も、ポスター、フェイスブック、ツイッターなど増やしたため、小学校区域を越え、また高齢者の参加も増加した。	

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）								実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲		
【第3章】基本方針				スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		【B】進捗状況	【C】実績の評価と今後の取組	
施策の考え方		平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績							
基本施策										
		事業名								
		2	むさしのジャンボリー（再掲）	豊かな自然環境の中での共同生活を通し、子どもたちの「自立心」や「創造性」、「自然への興味と理解」を育むことと、地域の中学・高校生を地域でのボランティア活動に取り込み、地域で青少年を育てていく環境作りを目的に、市と青少年問題協議会地区委員会の共催で実施します	児童青少年課	平成20年度で第37回目を実施 年1回夏休み中実施 市と青少年問題協議会地区委員会（12地区）で共催 自然体験・野外活動 2泊3日 参加人数については60頁を参照。	毎年度継続実施。2泊3日でハイキング、野外調理、キャンプファイヤーなど各地区で企画したプログラムを行った。平成21年度から24年度は11クール、25年度・26年度は12クールで開催した。平成23年度には40周年記念事業として、記念式典、記念展示、DVDとパンフレットの作成等を行った。	◎	児童の健全育成に資するとともに、将来の地域の担い手を育てる環境作りを行うことができた。今後も青少年問題協議会地区委員会と協力してより充実した自然体験活動の機会を提供していく。	
		計画期間中に新たに 取り組んだ事業	1	地域アスリートの応援			市の陸上競技場は市内のサッカーチームであるJFL横河武蔵野のホームグラウンドとなっている。チームを支援し、子ども達にトップチームの試合を観戦する機会を提供した。	◎	今後も継続して支援し、あらたな展開を検討する。	
③安全・安心で元気な地域づくり										
		1	浴場開放事業（不老（風呂）体操）（再掲）	市内8浴場及びコミュニティセンターで60分程度の健康体操を行います。公衆浴場では体操後無料で入浴できます。	高齢者支援課	平成19年度年間延べ参加者数14,459名。 平成20年度についても同等の参加があり、人気のある事業。	平成21年～平成26年度の間に8カ所あった浴場が廃業により5カ所に減少。しかし、会場をコミュニティセンター等に変更し、体操のみ継続して行っている。シルバースポーツ大会では、毎年、不老体操参加者全員で昼休みのアトラクションとして発表している。	◎	参加者は高齢化しているが、一方で長く通っている方も多く、介護予防や健康増進に寄与していると考ええる。会場である浴場が廃業し、体操のみの教室のほうが多くなっているが、参加者は継続する傾向にあり、今後は会場確保が課題である。	
		2	ラジオ体操等	各地域及び団体で随時開催しています。	関係各課	（記載なし）	各地域ごとに、各団体等により自主的に公園で実施している。また夏休みなどは小学生等に向けたラジオ体操も毎年実施している。	◎	地域の自主的な活動を今後も支援していく。	
		計画期間中に新たに 取り組んだ事業	1	高齢者交通安全グラウンドゴルフ大会	高齢者の交通事故防止対策の一環として、交通安全ルールの遵守と交通安全テスト、交通安全講話を行い、交通安全意識の高揚を図る。	交通対策課	（記載なし）	主催：武蔵野警察署、武蔵野市、武蔵野交通安全協会 協賛：武蔵野市老人クラブ連合会 老人クラブ単位での参加申込み 参加者数平均：237名	◎	引続き、関係機関と連携し、開催の継続及び参加者の交通安全意識の高揚増進を図っていく。

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）						実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲			
【第4章】実現化方策				スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		【B】進捗状況	【C】実績の評価と今後の取組
		平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績						
事業名									
1 情報提供の充実 【伝える】									
（1）市民ニーズの的確な把握・整理									
①市民ニーズの把握									
	1	イベント時のアンケート	各イベント時に、市民のニーズ聴取をし、今後のスポーツ振興や健康づくりにかかわる企画・運営に反映させます。	関係各課	各イベント時にアンケートを実施。	武蔵野生涯学習振興事業団で実施するイベント・教室等でアンケートを実施した。	◎	今後も継続して実施する。	
計画期間中に新たに取組んだ事業	1	定期的な市民ニーズの把握に関する調査	より実効性の高いスポーツ振興を図るため、定期的に市民ニーズを把握する調査を行います。			大規模なアンケート調査は実施していないが、常時総合体育館等にご意見箱を設置し市民の声を武蔵野生涯学習振興事業団の運営に反映している。	○	平成27年度計画改定に伴い、東京オリンピック・パラリンピック、ラグビーワールドカップ日本開催の影響も含めスポーツ市民意識調査を実施した。毎年実施しているモニタリングのアンケート調査なども活用し、今後も市民ニーズを把握していく。	
	2	イベント等におけるアンケート調査の実施	市やスポーツ団体が主催するスポーツイベント等において、アンケートやヒアリング等を適宜行い、市民のニーズを市のスポーツ振興に反映させます。			武蔵野生涯学習振興事業団で実施するイベント・教室等でアンケートを実施した。	◎	今後も継続して実施する。	
②市民が有するスポーツ情報の収集・整理									
	1	健康づくり活動情報誌（再掲）	毎年、健康づくり活動情報誌に掲載する健康づくり活動団体を募集します。健康づくり活動情報誌は、40歳以上の市民が自分にあった健康づくり活動を探す助けとなるよう、市内で行われている健康づくり活動を紹介します。	健康づくり支援センター	年1回募集。 平成20年度健康づくり活動団体数63	平成22年度より市関連施設及び健康づくり支援センター事業の紹介を追加掲載。活動情報誌に関する市民意見等のアンケートを折り込み。健康づくりのポイントカードを添付。健康づくりはつらつメンバー全員に送付。平成26年度健康づくり活動団体数52。	◎	平成27年度より活用対象を40歳以上から20歳以上に変更。はつらつメンバーへの送付による配布数の増。市内講座等において健康づくり推進員より活動情報誌活用PR及び掲載活動団体の紹介も行い、活用促進への取組みを行っている。アンケート結果等により見直しも実施予定。	
（2）スポーツの魅力を伝える情報提供									
①市民ニーズに応じた情報の整理・発信									
	1	スポーツ関連団体等ホームページの充実	スポーツ関連団体等ホームページの充実を図ります。 ・スポーツ振興事業団ホームページのリニューアル ・体育協会ホームページの活用	体育協会	（記載なし）	各加盟団体の紹介や、市民の参加できる大会の案内など掲載し充実をはかった。	◎	利用者にわかりやすいものにするため、体育協会内でワーキングをつくり平成27年度10月に一部リニューアルした。	
				武蔵野生涯学習振興事業団		平成22年度に全面的に改定した。教室への予約システムも組み込み、市民の利便性を向上させた。	◎	今後もフェイスブックやツイッターとも併用し、多くの情報を市民に提供していく。	
				生涯学習スポーツ課		市報に掲載する指定管理事業を含めた全ての教室・イベント等の案内をカレンダー方式でホームページに掲載している。関係団体のホームページへのリンクもはり、より分かりやすい工夫をした。	◎	今後も武蔵野生涯学習振興事業団や体育協会と連携して、わかりやすい案内をめざしていく。	

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）							実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲		
【第4章】実現化方策				スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		【B】進捗状況	【C】実績の評価と今後の取組
						平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績		
事業名									
		2	スポーツ・野外活動情報誌「DO Sports!」	スポーツ振興事業団の年間を通じた各教室・プログラムの紹介及びスポーツ施設の紹介をします。	武蔵野生涯学習振興事業団	市立小・中学校へ配布。	毎年度発行。平成26年度は7万9千部発行、内新聞折り込みを5万7千部実施。多くの方に情報を提供した。	◎	今後も継続して実施していく。
					生涯学習スポーツ課		全校生徒・児童に学校を通じて配布している。	◎	今後も継続して実施していく。
		3	健康づくり活動情報誌（再掲）	毎年、健康づくり活動情報誌に掲載する健康づくり活動団体を募集します。健康づくり活動情報誌は、40歳以上の市民が自分にあった健康づくり活動を探す助けとなるよう、市内で行われている健康づくり活動を紹介します。	健康づくり支援センター	年1回募集。 平成20年度健康づくり活動団体数63	平成22年度より市関連施設及び健康づくり支援センター事業の紹介を追加掲載。平成26年度より活用対象を40歳以上から20歳以上に変更。活動情報誌に関する市民意見等のアンケートを折り込み。健康づくりのポイントカードを添付。健康づくりはつらつメンバー全員に送付。平成26年度健康づくり活動団体数52。	◎	はつらつメンバーへの送付による配布数の増。市内講座等において健康づくり推進員より活動情報誌活用PR及び掲載活動団体の紹介も行い、活用促進への取組みを行っている。アンケート結果等により見直しも実施予定。
②誰にでも分かりやすい情報提供（★9：重点施策）									
	計画期間中に新たに取組んだ事業	1	ユニバーサルデザインの考えに基づく情報提供	市内のスポーツに関する情報について、誰にでも分かりやすいように、情報の内容と情報の伝え方のユニバーサルデザイン化を図ります。例えば、高齢者、障害者等の参加が可能なイベントかどうか、正確な情報を提供すると同時に、関係団体を通じた情報提供など、情報を届けたい人への伝達方法を工夫します。			東京都の障害者スポーツのホームページ「TOKYO障スポ・ナビ」に、武蔵野市のスポーツ施設や教室、イベント等の情報を提供し、随時更新している。	◎	今後も継続して実施していく。
③市民どうしでの情報交換の仕組みづくり									
		1	総合体育館利用者掲示板	市内等各種スポーツ団体のPR用掲示板（要申請）を設置しています。	武蔵野生涯学習振興事業団	（記載なし）	PR用掲示板の活用により、スポーツを通じたなかまづくりや、情報交換の仕組みづくりに効果をあげた。	◎	今後も継続するが、ホームページなどwebサイトへの掲載なども検討していく。
		2	青少年関連団体一覧表「みんなあつまれ」	市内登録の青少年関連団体の一覧表を作成しています。（活動内容、連絡先等明記）	児童青少年課	市内小中学校へ配布しています。	毎年度継続実施。子どもの健全育成を目的として子ども会・スポーツ・文化活動などを行う団体を毎年度登録し（約50団体）、その紹介パンフレットを作成し、市立小・中学校の全児童・生徒に配布した。	◎	団体の周知を図ることで青少年の参加を促すことにつながるとともに、団体の育成・支援に資することができた。今後も周知・広報に取り組んでいく。

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）						実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲			
【第4章】実現化方策				スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		【B】進捗状況	【C】実績の評価と今後の取組
		平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績						
事業名									
2 連携づくり 【支える】									
(1) 横断的な連携									
①市民による自主的な取組の促進									
	1	地域の運動会、ウォーキング事業、わんぱく相撲等	各地域、団体でのスポーツ活動を支援します。	関係各課（市民活動推進課記載）	社団法人武蔵野青年会議所主催の「わんぱく相撲武蔵野場所」について、武蔵野市の後援名義の使用を承認した。	社団法人武蔵野青年会議所（平成25年度からは公益社団法人）主催の「わんぱく相撲武蔵野場所」について、武蔵野市の後援名義の使用を承認した。	◎	事業の実施状況、後援名義の使用状況を確認しつつ、市政の推進に資するものであれば引き続き後援名義の使用を承認する。	
②市役所内のネットワークづくり									
	1	庁内ワーキングチームでの検討（再掲）	関係各課及び関連団体との連携を強化し、事業の効率的かつ円滑な運営を図ります。	生涯学習スポーツ課	体育協会スポーツ指導員	健康づくり支援センターと連携し、総合体育館で実施しているスポーツプログラムの内容を精査し事業を実施した。	◎	今後も関係課等と連携し、事業を実施していく。	
③市、振興事業団、体協、関係機関等の連携（★10：重点施策）									
	1	市民スポーツフェスティバル（再掲）	日頃スポーツをする機会の少ない市民を対象に簡単なレクリエーションスポーツを通じてスポーツの習慣化を図るとともにレクリエーションスポーツの振興を図ります。	体育協会 生涯学習スポーツ課	年1回10月体育の日600～1,000名参加 自由参加型イベント	毎年度継続実施。36競技団体の協力を得て、毎年多くの参加者がある。平成25年度からはストリート広場を会場としたスケートボード大会も同時に開催している。平成26年度の体育の日は1964年東京オリンピックから50周年を記念した聖火イベントを実施。	◎	体育協会、武蔵野生涯学習振興事業団との共催により実施。体育施設の1日無料開放も実施しており、子どもから高齢者まで多くの方が参加し、スポーツに親しむ機会を提供している。	
	2	市民体育大会・市民体育祭（再掲）	広く市民にスポーツ振興を図り健康増進と体力向上を図ります。	生涯学習スポーツ課	年2期 春・秋 35種目 各期7,000名参加 参加登録制	市民体育大会・体育祭は体育協会加盟の36の競技団体が、様々なプログラムを展開し、小学生から高齢者まで毎年多くの市民が参加している。	◎	バレーボール、サッカーなどから登山、ウォーキング、ライフル射撃、ソーシャルダンスなど多種多様な種目を用意している。27年度は加盟団体が37になり、参加者を増やしている。	
(2) 安心してスポーツを楽しむための支援									
①スポーツ教室・人材の派遣制度の充実									
	1	野外活動サポートスタッフ（再掲）	キャンプ、自然観察、アウトドアスポーツなどに興味・理解がある方を対象にサポートスタッフとして登録を行う制度。野外活動センター主催事業や市の開催するキャンプ事業、市立小中学校のセカンドスクール等の運営・補助業務を行います。	武蔵野生涯学習振興事業団	【平成19年度】 登録者数 37名 講習会 7回 応募者数 85人 参加者数 85人	野外活動をサポートするため、年間10回前後の講習会を実施し、スタッフを育成している。	◎	アウトドアは人気があり、様々な活動を支援するため今後もサポートスタッフの育成事業を継続していく。	
	2	出前講座	健康づくり人材バンクが市民の要望に応じて地域に出向いて、各種健康づくり講座を実施します。	健康づくり支援センター	随時	継続実施。 平成26年度より「健康づくり出前講座」に名称変更。	◎	市民等が健康づくりに触れる機会とし、意識変容を促すことを目的として今後も実施する。健康づくり推進員によるPR等により、新規獲得に力を入れている。平成27年度は件数が前年度の3割増程度となる見込み。	

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）

2 計画の中間評価（実績と成果、今後の取組み）						実施・実施後継続中／◎ 事業の一部を実施・実施後継続中／○ 完了（実施後継続を伴わないもの）／★ 検討・研究中／■ 未着手／▲			
【第4章】実現化方策				スポーツ振興計画 事業概要	所管課	実施状況		【B】進捗 状況	【C】実績の評価と 今後の取組
						平成20年度の状況	【A】平成21年度～26年度の実績		
事業名									
②スポーツ障害の予防・安全対策									
	1	スポーツ健康 相談	医師会から派遣されたスポーツドクター による健康相談を行います。	武蔵野生涯 学習振興事 業団	【平成19年度】 開催数 20回 利用者数 66名	医師による相談事業を実施していたが、平成27年度に休 止。	○	新しい相談事業の実施を予定している。	
	2	健康相談	健診の結果の見方や生活習慣病予防につ いて、医師や歯科医師、栄養士、保健師 がアドバイスを行います。	健康課	保健健康相談年12回 食生活健康相談年12 回 定員各5名程度	* 食生活健康相談はH22年度に健康相談と統合。 参加実人数 H21→33 H22→41 H23→53 H24→42 H25→58 H26→51	◎	心身の健康および食生活に関する個別の相談に応じ市民 の健康管理に資することを目的として実施している。スタッ プも多く時間枠が長いので、参加者の満足度は高いが予 約枠に対し稼働率は約6割である。平日午後の事業であ り、健康増進法の本来の対象者である40～64歳より65歳 以上の市民の利用が多くなっていることから今後の事業 の方向性も検討していく必要がある。	
	3	事故等への対 応	安全で安心してスポーツ活動ができるよう に施設の適正管理と対応職員の研修を随 時行います。	武蔵野生涯 学習振興事 業団	【平成19年度】 上級救命技能認定証 所持職員 20名 救急車要請16件 他	武蔵野生涯学習振興事業団の職員は、随時研修や訓練を 実施し、適正に施設の管理・運営を行っている。	◎	今後も市民の方が安全で安心してスポーツ活動ができるよ うに、継続していく。	
③スポーツ施設の適切な管理・運営									
	1	適正な管理	定期的な施設や設備、備品の維持管理、 更新などを行います。	武蔵野生涯 学習振興事 業団	各種点検の実施と必要 な修理、更新を实 施。	維持管理に必要な各種点検の実施と必要な修理、更新を实 施。	◎	今後も定期的な修繕と備品の更新を実施していく。また施 設や備品の老朽化等課題に向けても検討していく。	
				生涯学習ス ポーツ課		大型スポーツ用具、卓球台の買替や、プールには障害者専 用の更衣室に着替え介助のためのベッドを設置し、異性介 護用に新たな更衣室も整備した。	◎		
	2	施設の改修	経年劣化に伴う施設の改修を行います。	武蔵野生涯 学習振興事 業団	（記載なし）	施設の各種点検の実施と必要な修理、更新を実施してき た。陸上競技場の第3種公認検定に必要なフィールド（芝）及 びトラック等の改修工事を実施し、更新をした。	◎	平成元年にオープンした総合体育館等は、今後、施設の 経年劣化などの課題に向けて、定期的な修理の他に、計 画的な改修の検討が必要である。	
				生涯学習ス ポーツ課					
	計画期間中に新たに 取り組んだ事業	1	東京国体に向 けた施設改修	随時、平成25年開催の東京国体に向けた 施設の改修を行います。	生涯学習ス ポーツ課	（記載なし）	国体開催前の平成23年度に、メインアリーナの空調設備、 音響設備、メイン・サブアリーナの床など必要な改修を実施 した。	★	

3 パブリックコメントについて

スポーツ振興計画を一部改定する過程で、できるだけ多くの市民の皆様からご意見をいただくことにより、さまざまな角度から計画の内容を検討するために、「スポーツ振興計画一部改定案」に対するパブリックコメントを募集しました。

●募集概要

1. 募集期間 平成27年11月13日（金）から同年11月30日（月）まで
2. 周知方法 市報及び市ホームページ（11月15日号）
3. 提出数 21人（郵送3人、メール5人、ホームページ）

パブリックコメントでいただいた意見の概要と回答は、以下のとおりです。

No.	意 見（概 要）	住 所	回 答
1	陸上競技場、総合体育館等をオリンピック、ラグビーW杯をチャンスに改装することは賛成だが、内容があいまいで分かりづらい。①何を、②どう改装する、③お金はいくらかかる、④どこから出す（お金）、の4点を分かりやすく教えて欲しい。	緑町	高齢者や障害者など、誰もが使いやすい安全な施設になるよう改修をおこなっていきます。個別の具体的な改修内容等につきましては、市全体の施策の中で優先項目や予算額等を定め、実施していくこととなります。
2	ストリートスポーツ広場について、初心者には大変狭く子どもも伸び伸びと利用することが難しく、初心者使用可能な施設改修の再検討をお願いしたい。	練馬区関町南	施設整備の必要性も含め、施設をより有効に利活用していくことを検討します。
3	ストリートスポーツ広場について、小学生の子どもが始めるには難しいようであり、子どももできるような施設への検討を願お願いしたい。	練馬区関町南	2と同じ。
4	武蔵野市のスケートパークを子どもが利用したいのですが子ども向けにはコースが難しいので子どもむけのコースも作ってほしいです。道路などでルールを守らずやらせたくはないので検討してほしいです。	未記入	2と同じ。
5	ストリートスケート広場に初心者向けの施設をお願いしたい。	練馬区関町北	2と同じ。
6	ストリートスポーツ広場に関して、難易度が高く、小さい子などの初心者が練習するには難しいために、初心者エリアを増設して欲しい。子どもが一から始めるには難しい施設だと思われ、初心者も使える施設への改修を検討欲しい。	練馬区関町北	2と同じ。
7	ストリートスポーツ広場について、現状維持になったことについて再考を願う。現状では初心者が練習するには難しく、せっかくオリンピック追加項目に選ばれたのに、これでは裾野が広がらない。初心者からでも練習できる貴重なスペースの確保を希望する。	練馬区関町南	2と同じ。
8	「ストリートスポーツ広場：現状の性能を維持します。」の文言を、「オリンピック開催時期に備えて増設」との内容に変更して欲しい。2020年の東京オリンピックではIOC側も期待する追加種目として選ばれ、全国各地でも続々とスケートパークが新設される中、初心者が利用できない広場を現状維持のまま放置しておくのは、世の中の動きと逆行しており、これからオリンピックを目指して頑張りたいと思っている子ども達の気持ちを削ぐこととなり、大きな機会損失となる。	吉祥寺南町	2と同じ。

No.	意 見（概 要）	住 所	回 答
9	ストリートスポーツ広場に関して「現状の性能を維持」という判断を撤回し、「改善を検討」として欲しい。現在のストリートスポーツ広場は中上級者向けの施設となっており、初心者、特に子どもがスケートボードを始めするには難易度が高く危険性がある。2020年に開催される東京オリンピックの追加種目にスケートボードが有力候補としてあがっており、今後益々競技人口が増えるのではないかと予想される。初心者エリアを増設することを考慮していただきたい。	練馬区関町南	2と同じ。
10	ストリートスポーツ広場の機能拡充をお願いしたい。①体験型スポーツとして、オリンピック種目として採用見込みのあるスケートボードを追加いただきたい ②①に付随しますが、スクール事業を開催いただきたい。③①に付随するが、初心者にも参加しやすいエリアの増設をお願いしたい。④保護者や観戦者エリアの増設をお願いしたい ⑤スケートパークに屋根を増設し、全天候型にしていきたい。	杉並区浜田山	2と同じ。
11	1. 市役所周辺に集中している各種のスポーツ施設の全体について、その総称として「武蔵野スポーツ公園」、「武蔵野スポーツセンター」などの統一呼称を付け、市民、市外の誰にもこの地域全体を認識しやすく、アピールし、情報発信力を強くすることが望ましい。 2. 各施設名に冠せられている「武蔵野〇〇〇」、「武蔵野市立〇〇〇」、「武蔵野市営〇〇〇」について、3種類のうちのいずれかに統一されることが望ましい。 3. 「庭球場」と「テニスコート」など、同じ施設について異なる呼称が使われているケースがあり、統一されることが望ましい。多くの市民からいつまでも愛される施設であるため、名称や呼称も誰にも分かりやすいものにすべきと考える。	緑町	1. 現時点では統一した呼称をつけることは想定しておりませんが、今後参考とさせていただきます。 2. ご意見ありがとうございます。「武蔵野〇〇〇」に統一した分かりやすいご案内に努めます。 3. 施設の正式名称は「武蔵野市立武蔵野庭球場」となっておりますが、ご指摘を踏まえ、みなさまに混乱を与えてしまうことのないようにわかりやすい表記、統一した表記の使用に努めます。
12	ストリートスポーツ広場に関して現状維持となっているが、初心者、特に小さい子どもにはハードルの高い施設だと思う。オリンピックの追加種目に選ばれたスケートボードに興味があり始めてみたい気持ちを持った子どもたちが沢山いる。子どもたちにとっては施設の改修、特に初心者専用スペースの設置は急務かと思われる。	練馬区関町南	2と同じ。
13	小学2年生のわが子はジュニアスケートボード教室をきっかけにスケートボードに夢中になり、全5回の教室終了時にはある程度は乗れるようになって、ストリートスポーツ広場に行った際に、まわりのスケーターのレベルの高さに尻込みしてしまい、広場に入れなかった。今後、ストリートスポーツ広場がジュニアスケートボード教室及びインラインスケート教室などを終了した後の子どもたちにとっても楽しく安全に利用できる、そんな環境になることを望む。	吉祥寺南町	2と同じ。

No.	意 見（概 要）	住 所	回 答
14	「(5) 体育施設の改修・整備」における「その他の主な施設」について、「本計画期間内における、その他の主な施設の整備は、新クリーンセンター建設に伴う周辺整備の中で、具体的な検討を行う。」という記述とし、「テニスコート」については「遠方の市民等幅広い市民利用を考慮して、全市的な視野での再編、再配置も含めた整備を行う。」という記述に変更することを求める。「新武蔵野クリーンセンター(仮称)施設・周辺整備協議会」では、新クリーンセンターの建設に伴う周辺のまちづくりをテーマの1つにしており、クリーンセンター北側、つまり、現在野球場、テニスコート等があるエリア一帯もその対象として考えている。さらには、現クリーンセンター建設時の経緯、並びに周辺整備協議会を構成する周辺住民団体の区域を考慮すれば、陸上競技場、総合体育館等の周辺、武蔵野中央公園内の体育施設等を含む周辺も、今後検討対象となってくる。	緑町	今期計画期間においては施設配置の全体的な見直しは予定しておりませんが、クリーンセンター周辺整備および各施設周辺の環境にも配慮しながら適切な運営に努めてまいります。
15	ストリートスポーツ広場を利用して、たまに不安なことがあります。それは、初心者の方があぶないことです。5年後にオリンピックがあるので、スケボーを始めるのはいいことだと思います。でも、けがをしてスケボーをやめてしまうようなことがあると残念です。なので、スケボーをしている人達が安全に練習できるように初心者エリアを作してほしい。	練馬区関町南	2と同じ。
16	ストリートスポーツ広場で転んで怪我したことがあります。子どもでも安全に練習できるように、もっと小さいミニランプを作してほしい。	練馬区関町南	2と同じ。
17	「ストリートスポーツ広場」について、小さな子どもや初心者にとっては少し難しいレベルのスケートパークとなっている。子ども向けにスケートボード教室も開催しているが、教室で教えられたことを全てできるようになっても、このスケートパークをすぐ利用できるわけではない。初心者レベルの子どもが遊びに来て、滑ることができず帰っていくのを実際に何度か見かけている。初心者エリア増設について、検討願いたい。	吉祥寺南町	2と同じ。
18	ストリートスポーツ広場に関して、2020年の東京オリンピックの追加種目としてスケートボードがほぼ確定の立ち位置にあるのに関わらず、「現状維持」に留めることを強く反対する。日本全国で、民間行政問わず、続々とスケートパークが誕生している。そういった中で、武蔵野市はスケートパークの数も少なく、ストリートスポーツ広場は大きいとは言えず、そもそも初心者向けではない。練習の場を改善してほしい。	吉祥寺南町	2と同じ。
19	『施設の統廃合等による施設総量の縮減を図るとともに、複合化や転用など既存施設を有効活用する』のであれば、スポーツ施設複合エリアとしての、陸上競技場・体育館・プール・野球場等全体の施設の在り方を考えるべき。 野球場ゾーンについて、新クリーンセンターと調和した緑化整備等も含めて、よりよいスポーツ環境を目指すとともに、災害時に利用できるゲートの設置やテニスコートを1種目だけでなくフットサルやニュースポーツのコートとしても利用を図るなどの多目的利用の改善が望まれる。 陸上競技場や体育館、プールも含めたスポーツ施設複合エリアとして捉え、全体の駐車場の在り方を再検討する必要がある。駐車場があるがゆえに、住宅街へ車の流入、空き待ち渋滞、違法駐車等、地域の迷惑がある。野球場の駐車場が廃止となったため、少年野球の道具などの搬入は不便になったなどの事情があるが、「スポーツをしない理由」として「地域のスポーツ施設への交通利便性が悪いから」という回答は約1割程度であり、規模は縮小してもよいと考える。駐車場に関して全体的な見直しや、プールとストリートスポーツ広場のゾーンには、車だけでなくバイクの進入を禁止することが必要。単なる施設の長寿命化計画に留めず、実情にあった利用の改善や地域の課題解決につなげていただきたい。	吉祥寺北町	14と同じ

No.	意 見（概 要）	住 所	回 答
20	ストリートスポーツ広場：現状の性能を維持しますについて「施設のあり方を検討します」との文言へ差替えをしてほしい。現在のストリートスポーツ広場は中上級者向けの施設となっており、小さい初心者の子が練習をするスペースがなく、のびのびと満足に滑ることができない。その為に、わざわざ遠くの練習場まで行く事もある。現在の広場を拡張して、初心者エリアを設置して頂くよう検討願う。小さい時から始められる環境があることで世界への扉が開くことができると考えており、子ども達が練習できる環境作りへの協力を願う。	吉祥寺東町	2と同じ。
21	「ストリートスポーツ広場：現状の性能を維持します。」について、「早期増設」もしくは「施設のあり方を検討します」との文言への差し替えを希望する。13 年前に設立された施設は、子どもや初心者が利用しにくいものとなっており、未来のオリンピック選手を育てることは難しいのが現状である。東京オリンピックのスケートボード種目で、日本代表として最有力視されている瀬尻稜選手が子どもの頃から、そして今日も一般の利用者と共に利用されているスケートパークであり、日本中、世界中から注目される逸材を抱えているという幸運を再認識し、検討していただきたい。	吉祥寺南町	2と同じ。

4 武蔵野市スポーツ振興計画改定検討会議設置要綱

(設置)

第1条 2020年東京オリンピック・パラリンピック及びラグビーワールドカップ2019の開催を見据え、武蔵野市教育委員会（以下「委員会」という。）の両大会に向けた取組方針を策定し、及び武蔵野市スポーツ振興計画の一部改定を行うため、武蔵野市スポーツ振興計画改定検討会議（以下「検討会議」という。）を設置する。

(所管事項)

第2条 検討会議は、次に掲げる事項について検討し、その結果を委員会に報告する。

- (1) 2020年東京オリンピック・パラリンピック及びラグビーワールドカップ2019に向けた委員会の取組方針に関する事項
- (2) 武蔵野市スポーツ振興計画の見直しに関する事項
- (3) 前2号に掲げるもののほか、武蔵野市教育委員会教育長（以下「教育長」という。）が必要と認める事項

(組織)

第3条 検討会議は、別表に掲げる委員で組織し、教育長が委嘱し、又は任命する。

(座長及び副座長)

第4条 検討会議に座長及び副座長各1人を置き、座長は教育部長の職にある者をもって充て、副座長は教育部生涯学習スポーツ課長の職にある者をもって充てる。

2 座長は、会務を総括し、検討会議を代表する。

3 副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるとき又は座長が欠けたときは、その職務を代理する。

(設置期間)

第5条 検討会議の設置期間は、委嘱又は任命の日から平成28年3月31日までとする。

(会議)

第6条 検討会議の会議は、必要に応じて座長が招集する。

2 検討会議が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明若しくは意見を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(事務局)

第7条 検討会議の事務局は、教育部生涯学習スポーツ課に置く。

(その他)

第 8 条 この要綱に定めるもののほか、検討会議について必要な事項は、教育長が別に定める。

付 則

- 1 この要綱は、平成27年 6 月 8 日から施行する。
- 2 この要綱は、平成28年 3 月31日限り、その効力を失う。

別表（第 3 条関係）

教育部長
教育部教育企画課長
教育部指導課長
教育部教育支援課長
教育部生涯学習スポーツ課長
教育部生涯学習スポーツ課武蔵野ふるさと歴史館担当課長
教育部図書館長
公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団を代表する者のうち 1 人

5 検 討 経 過

第一回委員会 （平成27年6月10日）

- (1) 武蔵野市スポーツ振興計画の説明
- (2) 2020年東京オリンピック・パラリンピック、2019年ラグビーW杯に向けた教育委員会の取り組み方針の作成について
- (3) 現計画の中間時点での実績評価について
- (4) 関係団体、市民意見等の反映について

第二回委員会 （平成27年7月23日）

- (1) 2020年東京オリンピック・パラリンピック、2019年ラグビーW杯開催に向けた武蔵野市の取り組みについて
- (2) 2020年東京オリンピック・パラリンピック、2019年ラグビーW杯開催に向けた武蔵野市教育委員会の取り組み方針について
- (3) 各項目の具体的な取り組みについて

第三回委員会 （平成27年9月30日）

- (1) スポーツについてのアンケート調査結果（速報）について
 《スポーツについてのアンケート調査　：平成27年8月実施　》
- (2) スポーツ振興計画一部改定（案）について

第四回委員会 （平成27年10月13日）

- (1) スポーツ振興計画一部改定中間まとめ（案）について
- (2) スポーツについてのアンケート調査結果について
- (3) 現計画の中間時点での実績評価の結果について

第五回委員会 （平成27年10月23日）

- (1) スポーツ振興計画一部改定（案）中間まとめの修正について
- (2) 武蔵野市教育委員会の取り組みの方向性について

第六回委員会 （平成27年12月15日）

- (1) スポーツ振興計画一部改定最終案について
- (2) パブリックコメント（平成27年11月13日から30日まで実施）の結果について
- (3) 最終報告について

武蔵野市スポーツ振興計画一部改定

平成 28 年 4 月

武蔵野市教育委員会 教育部 生涯学習スポーツ課

〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28

電 話 : 0422-51-5131(代表)